

平成 27 年第 5 回糸魚川市議会定例会会議録 第 3 号

平成 27 年 12 月 7 日（月曜日）

議事日程第 3 号

平成 27 年 12 月 7 日（月曜日）

午前 10 時 00 分 開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

応招議員 19 名

+

出席議員 19 名

1 番	吉	川	慶	一	君	2 番	笠	原	幸	江	君
3 番	斉	木		勇	君	4 番	渡	辺	重	雄	君
5 番	倉	又		稔	君	6 番	保	坂		悟	君
7 番	田	中	立	一	君	8 番	古	川		昇	君
9 番	中	村		実	君	10 番	大	滝		豊	君
11 番	高	澤		公	君	12 番	伊	藤	文	博	君
13 番	田	原		実	君	15 番	吉	岡	静	夫	君
16 番	新	保	峰	孝	君	17 番	五	十	嵐	健	一
18 番	松	尾	徹	郎	君	19 番	樋	口	英	一	君
20 番	古	畑	浩	一	君						

欠席議員 0 名

説明のため出席した者の職氏名

+

市 長 米 田 徹 君
 総 務 部 長 金 子 裕 彦 君
 産 業 部 長 斉 藤 隆 一 君
 企 画 財 政 課 長 藤 田 年 明 君
 能 生 事 務 所 長 原 郁 夫 君
 市 民 課 長 池 田 正 吾 君
 福 祉 事 務 所 長 加 藤 美 也 子 君
 交 流 観 光 課 長 渡 辺 成 剛 君
 建 設 課 長 串 橋 秀 樹 君
 ガ ス 水 道 局 長 清 水 保 雄 君
 教 育 長 竹 田 正 光 君
 教育委員会こども教育課長 山 本 修 君
 教育委員会文化振興課長
 歴史民俗資料館長兼務
 長者ヶ原考古館長兼務 磯 野 茂 君

副 市 長 織 田 義 夫 君
 市 民 部 長 田 原 秀 夫 君
 総 務 課 長 岩 崎 良 之 君
 定 住 促 進 課 長 渡 辺 勇 君
 青 海 事 務 所 長 大 瀬 信 明 君
 環 境 生 活 課 長 五十嵐 久 英 君
 健 康 増 進 課 長 山 本 将 世 君
 商 工 農 林 水 産 課 長 斉 藤 孝 君
 会 計 管 理 者 横 田 靖 彦 君
 会 計 課 長 兼 務
 消 防 長 大 滝 正 史 君
 教 育 次 長 竹之内 豊 君
 教育委員会こども課長兼務
 教育委員会生涯学習課長
 中央公民館長兼務
 市民図書館長兼務 佐々木 繁 雄 君
 監 査 委 員 事 務 局 長 森 正 人 君

事務局出席職員

+

局 長 小 林 武 夫 君
 係 長 室 橋 淳 次 君

次 長 松 木 靖 君

+

午前１０時００分 開議

○議長（倉又 稔君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（倉又 稔君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、３番、斉木 勇議員、１３番、田原 実議員を指名いたします。

+

一般質問に入る前に、１２月５日発生いたしました田伏県営住宅の火災について、行政側から発言を求められておりますので、この際これを許します。

斉藤産業部長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

○産業部長（斉藤隆一君）

おはようございます。

本会議前の貴重な時間をおかりして、去る１２月５日、先週土曜日ですけれども発生しました、市が管理する県営田伏住宅の火災について報告いたします。

県営田伏住宅Ｃ２４号から出火。近隣住宅の入居者から、１３時１３分に消防へ通報が入り、消防が出動したものであります。

火災発生の原因は、台所のてんぷら油に火が入り、出火したものであります。消防への通報とほぼ同時に、入居者自身が住宅に備えつけの消火器により消火。消防車両が到着したときには、既に鎮火しておりました。被害の状況としては、けが人はなく、台所の電気、設備機器等の破損であります。

年末を控え、火を使う機会がふえることから、県営住宅をはじめ、市の管理する公営住宅入居者に対し、火災予防の周知徹底を図ってまいります。

以上で、報告を終わります。

+

日程第２．一般質問

○議長（倉又 稔君）

日程第２、一般質問を行います。

４日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

おはようございます。

糸魚川２１クラブの田原 実です。

発言通告書に基づき、質問をいたします。

１、市役所職員の市民への対応について。

（１）さまざまな公共施設でのそれぞれの市職員対応について伺います。

（２）障害を持つ人への対応について伺います。

（３）赤ちゃん、子供を連れた人への対応について伺います。

（４）市職員の「コミュニケーション能力」、「問題解決能力」向上について伺います。

この質問の趣旨は、明るい市役所、市施設と市民に感じてもらうには何をしなければいけないか、市民に信頼される市職員になるには、何をすべきかということです。

2、糸魚川ジオパークの災害対応について。

- (1) 地震災害への対応、昨年の長野県北部地震の教訓について伺います。
- (2) 火山噴火災害への対応、焼山災害避難訓練の反省点について伺います。
- (3) 自助、共助、公助の市民理解について伺います。
- (4) ジオパークのユネスコ認定と自然災害教育の促進について伺います。

この質問の趣旨は、豊かな自然や地質資源に囲まれているということは、同時に自然災害に巻き込まれるリスクも高い。市民みずからが、命を守るための知識と行動を習得し、訓練に参加して災害に備えてもらうには、何をすべきかということです。

3、糸魚川地域の特性をいかした農業、林業、漁業、ものづくり、環境、自然エネルギー、観光等、地域産業振興と若者就労について。

- (1) 糸魚川地域で取り組むべき農業と若者就労について伺います。
- (2) 糸魚川地域で取り組むべき林業と若者就労について伺います。
- (3) 糸魚川地域で取り組むべき漁業と若者就労について伺います。
- (4) 糸魚川地域で取り組むべきものづくりと若者就労について伺います。
- (5) 糸魚川地域で取り組むべき環境産業と若者就労について伺います。
- (6) 糸魚川地域で取り組むべき自然エネルギー産業と若者就労について伺います。
- (7) 糸魚川地域で取り組むべき観光産業と若者就労について伺います。
- (8) 糸魚川市内の中学・高校での地域ビジネスモデル教育について伺います。
- (9) 糸魚川で学びたい、働きたい人の市外での募集や発掘について伺います。
- (10) 糸魚川で学びたい、働きたい人の受け入れ、糸魚川市独自の取り組みについて伺います。

この質問の趣旨は、都会や他市にはない、糸魚川の環境の特性と魅力を使った産業の創造と振興に努め、若者の仕事をつくり定住を促すには、地方自治体は何をすべきか、行政は何をすべきかということです。

今、地方自治体は、地方創生の具体策を明らかにするよう、国から求められています。国は、3つのポイントを示しています。1つは、若者の就労・結婚・出産の支援。次に、東京への一極集中の是正。そして、地域の特性の尊重、すなわち地域の個性の活用です。

これは、糸魚川市でもこれまで取り組んできたものの、際立った成果が見られない長年の課題でした。ただ、他の自治体の挑戦と行動が、消滅の危機に瀕する地域をよみがえらせた例を知れば、より条件のよい糸魚川が活性化しないのはなぜか。結果を出す努力が、まだ足りないのではないかとその思いに駆られます。

地方創生は、行政だけでできるものではありません。しかし、地方の存続対策は待ったなしです。地方自治体は、みずから改革し自主的に動き出すことが必要です。

市長、行政の知恵と行動力を、市民に示すご答弁をお願いいたします。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、施設を訪れる皆様が、気持ちよくご利用いただけるように対応する旨、職員に指導いたしております。

2 点目、3 点目につきましては、相手の立場に立って、適切な対応を心がけております。

4 点目につきましては、さまざまな研修等に参加することにより能力向上を図っており、さらなる研さんを重ねてまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、大地震にもかかわらず死者が発生しなかったことから、地域コミュニティと共助の重要性を、再認識いたしたところであります。

2 点目につきましては、3 名が犠牲となった火山災害から 40 年が経過いたしましたが、災害を振り返り、早川地区全域では初めてとなる住民避難訓練を実施し、特に上早川地区では住民の約半数が参加した意義は、大変、大きかったと考えております。

今回の訓練で課題となった情報伝達・避難方法等を検証し、避難計画に反映するとともに、今後も総合的な訓練を実施してまいります。

3 点目につきましては、特に自助、共助の重要性を理解していただくとともに、自主防災組織化への取り組みを進めております。

4 点目につきましては、日本ジオパークネットワークでは、防災も重要な要素の 1 つとして取り組んでおり、今回のユネスコ正式の事業化を機に、さらに学校や地域と連携をしながら積極的に取り組んでまいります。

3 番目の 1 点目から 3 点目につきましては、地域資源や環境を最大限に活用するとともに、さらなる資源の掘り起こしなどにより、農林水産業の多様化と持続可能な産業構造への転換を図ることで、雇用の増加につなげてまいりたいと考えております。

4 点目につきましては、当市の主要産業である建設業や製造業においては、近年、人材不足が顕在化していることから、地元企業の魅力を若者に伝えていくことが大切だと考えております。

5 点目と 6 点目につきましては、環境産業や自然エネルギー産業については、現在、当市での就業者は少なく、まずは産業の育成に取り組んでいく必要があると考えております。

7 点目につきましては、現在、北陸新幹線開業にあわせ、ジオパークを核とした交流人口の拡大を目指しているところであり、これに伴い観光産業に従事する若者の就労の増加を期待いたしております。

8 点目につきましては、中学校ではまちづくりへの提言・提案などをキャリア教育として実施いたしており、高校につきましては、産官学連携により地域資源を活用した高校の魅力向上に向けて支援をいたしております。

9 点目につきましては、首都圏で開催される移住相談会や農業人フェア等に参加し、人材確保に取り組んでおります。

10 点目につきましては、インターンシップ事業や大学と連携した集落活性化事業などの取り組みを行っており、それを進めていきたいと思っております。

以上、ご質問にお答えいたしました、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、職員対応について、2回目の質問です。

職員の接客態度、要件の処理は、市民からよいと評価されているのでしょうか。また、それはどのようにチェックをされていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

おはようございます。

毎年、市民課と能生・青海事務所におきまして、窓口サービス満足度アンケートを実施しております。ことしも9月、10月に実施いたしております。お客様からのアンケート結果を見ますと、81%の方から満足・やや満足との回答をいただいておりますが、その一方で、約1%の方から不満・やや不満との回答をいただいておりますし、さらに電話や、ご意見直通便で苦情をいただくこともありますことから、一層の接遇向上に努める必要があるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

アンケートによれば、非常にいいということですね。私も、いいとは思っているんです。それで、市民に親しまれ信頼される明るい市役所となるには、日ごろから、職員一人一人の接遇向上の心がけが必要だということで、そのマニュアル、それから訓練というものはどうなっているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

接遇の向上につきましては、糸魚川市が作成いたしました接遇ガイドブックで、職員に指導しております。接遇研修や職員服務研修など、さまざまな機会に指導を行っておりますし、また朝礼時の挨拶唱和などを継続しておりますが、さらに周知徹底を図っていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○ 13番（田原 実君）

県内の三条市は、接遇マニュアルを策定し、その冒頭で「お客様からよい・満足とじていただけるよう、職員の指導徹底を行っていきます」というふうに出ているんですね。

ここで、市民と言わず、「お客様」というふうに出てるんですけども、糸魚川市の職員育成の手引きでは、どういうふうになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

当市における接遇ガイドブックの中でも、「お客様」と表記させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○ 13番（田原 実君）

三条市の接遇マニュアルでは、「思いやり接遇」として、ハンディキャップを持つ方や高齢者、小さい子供さんを連れた人との対応を解説をしています。糸魚川市の施設では、どのような対応になっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

当市の接遇ガイドブックの中でも、お年寄りや体の不自由な方への対応も掲載しており、「お客様との対応は、耳と目と心で聞く」と表記しておりますが、先ほども申しましたように、アンケートで、まだ悪いというご意見もいただきますことから、まだまだ積極的に行動できる職員ばかりだと思っておりますので、そのときの状況や、相手のことをよく考えて行動できる職員となるよう、指導に努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○ 13番（田原 実君）

きょうの質問のポイントは、そこにあるんです。

しばらく前の、糸魚川市民会館のコンサートで、視覚障害のある方が盲導犬を連れてホールに入ったところ、別室への移動を職員から指示されて、楽しみにしていた一流歌手の生の歌声や、会場の臨場感を味わうことができなかったということがありました。

なぜ、そのような対応になったのか。事前に連絡しなかった利用者に問題があったのか。盲導犬がホールにいと、ほかのお客様に迷惑がかかるというのか。利用規則というものがあるでしょうけども、管理者のほうに落ち度はなかったというふうに言えるのかどうか、伺いたいと思います。

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

糸魚川市民会館の開館以来、恐らく初めて、盲導犬を伴ったお客様をお迎えいたしました。リハーサルでは、ときにスモークがたかれたり、激しい照明、大音量もありました。また、盲導犬に対する知識不足もありまして、トラブルになってはいけないという思いから、市民会館ではお客様のご了解を得まして、親子ルームへ移動していただきました。

ただ、親子ルームがホールでの臨場感とは異なることについて、ご不満があったということから、後日、改めておわび申し上げるとともに、今後の利用について相談・協議をさせていただきました。その後、開催された講演会ではホール内の席をご利用いただいております。

盲導犬に対する認識が足りなかったことや、現場の経験不足から、ご迷惑をおかけしたと考えており、今後、かかることのないよう対応し、ステージをお楽しみいただけるよう努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

経緯をお話いただきましたし、また謝罪をしたということと、その後の対応は改善しましたよということなんですけども、ぜひ、庁内でこのことを共有していただいて、職員の皆さんお一人お一人が、こういった場合にこういった対応をするかということ、みずから考えていただきたいということで、今回の質問をさせていただきます。

障害を理由とする差別の解消の法律というものが、制定されました。

福祉事務所としては、ハンディキャップのある方への対応をどのように考えていますか。また、ハンディキャップのあるなしにかかわらず、福祉事務所を訪れる市民への対応。これに対しては、どのような心がけをしていったほうがいいというふうに考えているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

市民の方の中には、障害のある方もいらっしゃいますし、障害のない方もいらっしゃいます。また、年齢も高齢の方もいらっしゃいますし、小さいお子さんもいらっしゃいます。その方たち皆さんが、市役所に来られたときに、気持ちよく帰っていただけるような、そんな対応を心がけているところでございます。

また、障害者差別解消法が、来年の4月から施行されますことから、その解消法では差別的取り扱いの禁止と、合理的配慮義務というものが盛り込まれております。今後もさらに、市民の方の立

場に立ちまして、窓口対応をしてみたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

困ってる様子の方がいたら、声がけをするということが必要になってくるかと思えますんで、そこら辺、難しい面はありますけど、ひとつよろしくお願いしたいと思えます。

私、市のさまざまな施設を伺いまして、そこでさまざまな接遇を体験いたします。

そこで、気になりますのは、窓口の前に立ってしばらく間を置いて、こちらから声をかけるまでパソコンにずっと向かって仕事をしている、仕事熱心な職員の方というものを見受けるんですけども、パソコンに向かって、私、今仕事しているから忙しいんですよという、そういうことをこちらのほうに伝えている面もあるかと思えますが、これは、尋ねる者にとっては非常に気を使うところであります。そういったところを、接遇の改善の余地はないのかなと思えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

そのようなことにつきましては、大変、申しわけございません。おわび申し上げます。

職員は、いかなる状況におきましても、お客様第一主義で対応することが大切だと考えておりますので、今のようなお話を聞いて、全職員に伝達する中で、接遇のさらなる向上に努めてまいりたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

はい、わかりました。

役所の窓口対応というのは、これはクレームが多いと思えます。私は、これを一時しのぎや我慢の場としてはいけないと思えます。苦情、それから同時に感謝ももらえる場所ではないかなというふうに思えます。

職員は、接遇を理解しその技術を身につけ、市民に親しまれ、信頼されるということも仕事ではないかと思えます。それは、職員の皆さんにとっては、公務員としての自己実現ということになるんじゃないでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

ご指摘のとおりだと思います。

+

そもそも、クレームをいただかないように努めなければいけません、お客様へのご不便、不快に感じられること、あるいはより改善すべき点についてはクレームやご意見になってまいりますので、そのクレーム等を解消し改善していくことが重要ですし、さらにその内容を課の全員や、関係する他課の職員で共有していくことが、市役所全体での意識を高めていくことが必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

市長の答弁では、研修等を重ねておりますというお話でございました。そこで、この機会に市の職員さんは、接遇の技術、それから心構えを身につけるために、こういったことを研修されているのかなというところに興味があるんですけども、このスキルアップをどのように図られていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

市職員の人材育成及び研修に関する基本方針に基づきまして、庁内、庁外で研修等を行いまして、計画的に取り組んでおります。

また、市の新しい取り組みへの理解も必要なことから、例えば本年度は全職員を対象に、総合戦略やマイナンバー関係の研修を継続しておりますし、そのような中で、継続して職員の意識を高めてまいりたいと思っておりますし、接遇の向上については、朝礼等で常に意識をしていきたいというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

職員の皆さんは、本当、糸魚川市の人材、宝物であります。地域に入っても、皆様の働きというものは非常に大きいと思います。それで、そういった接遇だけでなくコミュニケーション能力、それから問題解決能力のスキルというものを身につけていただきますと、これが仕事以外のところでも役立って、人から親しまれて信頼される技術だと思いますので、ぜひ、しっかりと身につけていただきまして、日本一の職員を目指していただきたいと思っております。

最後に、こども課の窓口について、1つ提言をいたします。

市役所の2階に、子育ての相談窓口があります。ただ、いかにも役所ですという感じのカウンターの前に、座らされての相談対応、これについては改善すべきことはないかということで、日本一の子供を育てるということが感じられるような窓口ということに、工夫をしていただけないかということなんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

おはようございます。

今、お話がありました、当こども課の窓口についてであります、カウンターの後ろのほうには、小さいお子様が、親御さんが手続中に安心して、目を離しても安全にいられるようにという遊び場の工夫はさせてもらっておりますが、カウンター自体は相談対応だけではなく、申請書の記載場所でもありますということで、少し殺風景に感じられたのかなというふうにも思っております。

また、節電ということもありまして、少し全体として暗いイメージがあるのも確かかと思っておりますので、今後、改善できるところは改善してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

確かに、私が伺ったときも、たまたまいつもなんですけど電気が消えてたりして、ちょっと暗いなという感じはしておりました。

育児相談の窓口でございますので、お母さん、若い女性が訪れるということから、センスよくサイン等も工夫していただきまして、また来なくなる雰囲気というものをつくるように、工夫が欲しいなというふうに考えるわけです。それも1つの接遇のデザインというものかと思えます。

そこで、このためのアイデアをワークショップなどで、庁内の若い職員さんとか女性職員の皆さんからいただく。使い勝手・雰囲気づくり・接遇の意見・アイデアということを募るということを行ってはいかがと思いますけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

ご提言というふうに捉えまして、具体的にどこをどう改善できるかというところを、まずは課内、女性職員たくさんおりますので課内で検討し、それをまた、庁内でも評価していただいて改善につなげていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

よろしくお願いします。

災害対応の2回目の質問に移ります。

私は、昨年12月議会でも長野県北部神城断層地震と、糸魚川市の地震災害対応の質問をいたしました。

市長より、建物の耐震化、地震への心構え、共助の重要性を再確認したと。

消防長より、非常に近いところで発生した地震に、みんな驚いたと。今後、出前講座、地区の訪問懇談会、防災リーダー研修などで市民周知を図っていくと、答弁をいただいております。

私からは、現地の方から聞いた現場の生々しい状況をお話ししまして、参考になるので、ぜひ現地に行って、見て聞いて、調査・分析して、糸魚川市民にフィードバックしてほしいと要望をいたしました。

この１年間の取り組みと成果について、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

出前講座は、平成２６年は２８回、２７年度は２９回開催しておりまして、それぞれ約１,７００人、１,８００人の方々から参加をいただいております。

また、防災リーダー研修は、毎年開催しておりますけれども、本年３月に消防本部で５０地区、約１００人の方から参加をいただき、研修いただいております。

出前講座では、地震・津波・大雨による災害、土砂災害などについて周知するとともに、災害により、自分たちの地域は自分たちで守る。また、どこが危険なのかというようなことを知っていただくという取り組みについて、図面を用いた実践的な訓練を取り入れており、着実な防災に対する意識向上が図られているというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○１３番（田原 実君）

一生懸命、取り組んでいただいております。

それで、この機会に、市長が重要と答弁しました共助の取り組みということなんですけど、市民の理解が進むように、この議会、中継をごらんになってる方もいらっしゃると思いますんで、この場でわかりやすく説明をしていただきたい、そのようにお願いしたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

３．１１以降、市民の防災への関心は、出前講座の件数などからもうかがえます。

毎年、実施しております防災訓練では、特に要配慮者への支援について力を入れております。行政の役割といたしましては、市民一人一人が、自分たちの地域は自分たちで守るという意識のもと、自分たちは何をしなければならないのか、また何ができるかなどを考え、実行していただくための支援・働きかけであります。そして、行政もともに考えるということだというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

行政もともに考えるというふうに、ご答弁をいただいております。

去る10月10日に実施された、焼山の防災訓練。ここにおける行政の共助の役割ということについて、少し伺いたいと思うんですけども、行政もともに考えるという、その考えるということはどうだったのかということですね。行政もともに行動をして、そして何か結果を出すような訓練にしていかなければいけないのではないかとこのところから、伺いたいんですけども、先日の訓練における行政の共助の役割ということ、いま一度、伺いたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

今回の訓練は、避難場所や避難経路を確認していただくという住民避難訓練、それから関係機関との連携確認及び市の各部署の対応について重点を置き、実施したものであります。今後も訓練を継続し、特に共助につきましては要配慮者への支援について力を入れておりますが、今後も実践していただくよう、地区に働きかけるとともに、行政も対応してまいりたいというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

訓練に参加した市民の方から、私に寄せられた意見なんですけども、訓練の対象となった地域の小学校・保育園の児童は、言うなれば避難弱者であるが、小学校・保育園に参加を要請したのかというものがありました。ジオパーク学習で児童は災害を学んでいると市長は言うけども、みずからの命を守る役に立つような訓練ができていないのではないかとこのご意見であります。事実確認をしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

上早川小学校と訓練参加について協議を、消防本部のほうでいたしております。訓練当日は休校日であるということから、児童は家族と一緒に住民避難の訓練に参加をいただき、学校職員が避難所で児童の安否確認を実施したところでございます。今後、学校・保育園・事業所にも参加いただき、訓練を実施してまいりたいと思っております。

また、災害を学ぶという点では、各学校において取り組んでおり、今後も学校、関係課と連携を実施してまいります。

以上です。

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ほかには、参加対象者や参加数の設定は、何を基準にしたのかわからないという意見もありました。上早川では、地元企業との避難の連携はできていたのか、地域住民みんなを避難させる計画であったのか、温泉が準備したバスに乗れる人数で避難所へ行く者の数を決めたのではないかという、そういうことで、これで果たして真剣な避難訓練と言えるかという意見をいただいておりますね。このあたりも、事実確認をしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

早川地区の両協議会長を通じまして、全住民を対象に参加をお願いしておりますし、バスの台数による人数制限等はいたしておりません。事業所等との連携につきましては、今後の訓練で実践をまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

行政に明るい方からのご意見なんですけど、組織立てと担当者の働きについて疑問であると。

訓練の対象となった地域と、消防本部防災係の連携はあったが、市長部局の担当部門からの指導・助言はなかったと。市長部局と消防本部の連携ができていないのに、住民の共助と連携できていくのかという指摘なんです。

もしそうなら、真摯に受けとめ強く反省し、担当職員の指導をすべきだというふうに考えますけども、この点につきましても事実確認をしたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

防災につきましては糸魚川市の担当であり、窓口でありますのは消防本部でありますことから、消防本部で地元対応等を行っておったものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

市の総務は全庁を統括する部署。しかし、そこが何の働きをしたのか、避難会場の体育館にいた

行政職員は、何をしたのか働きが見えなかったという声でありまして、災害はいつでも起こる、その防災と減災のために行う訓練には、職員が総力を挙げて早く準備し、当日の対応にも当たらなければならないと。

ところが、地域の説明から実施日まで、時間がなかったという段取りの悪さは、全庁一丸の取り組みとなっていないことの、1つのあらわれではないかというご指摘なんですね。なぜそうなのか、総務部長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

災害の対応については、災害対策本部を設置して全庁挙げて取り組むという考えであります。

今回の、日ごろの防災啓発につきましては、消防本部のほうに主に関わりになりまして、全庁連携の中で、今回の避難訓練を実施いたしております。

今回の避難訓練につきましては、噴火の警戒レベルを引き上げ、それに伴う市の対応の訓練。それから、住民の皆さんから避難経路・避難場所を確認いただく避難訓練、こういうものをあわせて持って実施をいたしました。

住民の皆さんからは、全体的な流れがちょっとわかりにくかったのかなという点での反省事項はございますが、今後、そのような訓練を重ねながら、住民の皆さんともども、安心安全の訓練となっていくように、今後とも重ねて訓練をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

訓練を重ねていくという答弁です。共助の、行政も一緒に考えていくんだということなんですが、住民の方にわかりにくかった訓練を幾ら重ねたって、何の訓練にもならないですよ。その反省というものがあつたのかどうかを、今ここで聞いてるんですよ。それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご承知のとおり、新潟焼山の噴火という1つの訓練をさせていただきました。これは、今までもやっておりましたが、しかし、今回は特にハザードマップが作成され、それに書いてあるこの避難というところに対して、本当にそういう形がとれるかどうか、そういったところが一番、やはり我々はこの訓練の中で重要視をさせていただいたところであります。

その中で庁内もやはり、そういう1つの今までのこの避難体系をとりながら、住民の皆様方も参加いただく中で、どれだけ多くの人たちが参加していただくかというところをあわせながら、それ

+

に対して我々は、受け入れ体制をどのようにとっていくかというような形をさせていただきました。

でありますから、これは全て完成形では、私はないと思っています。まずは、第一歩をやってみて、そしてそれに対してどのような不備なところがあり、また、それに対して対応しなくちゃいけないところがあるのか、そういった避難情報の位置はどうなのかというようなところも、やはり大きなところであったわけでございまして、全てこの満足のいく、私、十分に充実した訓練であるとは思っておりません。まずは、やはり第一歩をやってみた中での、これからの方向性を踏み出していきたいための、第一歩であったと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

災害が起きたときは、いや応なしですよ。それで、そのために訓練してるということだと思うんです。

それで私が繰り返し言うんですけども、住民のほうにわかりにくかった訓練の、その段取りをしたというところに反省はないのかということなんです。市長おっしゃるとおりですよ、第一歩なんです。改善していくんです。けども、そのために今ここで、何を反省しなければいけないかということ聞いてるんですけど、まだ十分なご答弁はいただけてないように思います。もう一度、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういったところの不備なところは、やはりこれから改善しなくちゃいけないと思っておりますが、今までみたいに、全て災害が起きたときの避難というのはどうあるべきかというのを、事前に住民周知をして行う訓練、それは我々といたしましても、果たしてどうなのか。やはり臨場感を持った避難訓練というのが必要になってくるのではないかと、そういうところを頭に置きながらさせていただいておるわけでございまして、一部の人たちだけでは、やっておるわけではございませんが、そのようなふだんからの避難訓練が、これから必要になってくるんだろうと思うわけでございます。その辺も踏まえながら、今、させていただいておるわけでございますので、必ずしも同じような、以前と同じような形にはならないところがあるのではないかなと、私は思っております。

ただ、やはり共助の面というところにつきましては、そこまでは今回の訓練の中には、あまり重要視をしておりませんでした。ただ要するに、ハザードマップで、それでその体制がそれでいいのかどうか、その確認の訓練が一番大きい目的だったと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

私が、地域の方から聞いた声を自分なりに捉えてみますと、要は人と人とのつながりづくりというところが弱かったのではないかと。地域に入って、その目的をしっかりと伝えて、皆さんにどのように動いていただきたいのかということ、それを伝える行政の働きが見えなかったということと、それから当日の会場での職員の皆さんの働きが見えなかったということ、この点をやはり反省をしていただいて、今後につなげていただきたい。

市長から、今いただいた答弁。実現するために、今後どういうふうに、市の職員の皆さんのコミュニケーション能力ですとか、問題解決能力を向上させていくのかということ、じゃあ、手を挙げてくださってますんで、総務部長から最後にお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

全体的な流れは、先ほど私がお答えしたとおりでございますけれども、大和川小学校に避難、住民の皆さんから避難いただいた訓練のところにおきましては、ちょっと時間の使い方として、住民の皆さん方が待っている時間もございましたし、また、その間の市の職員は、事前に災害対策本部訓練をした後で、大和川小学校の避難の様子を、市の部課長が現地を確認にまいりました。

そのような連携の中で、もう少し時間の使い方として、訓練の内容を濃くする必要があるのではないかというような点については、今後の反省点として、今後の訓練の中で生かしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

さて、私は、ジオパークの災害教育を4年前にも取り上げています。

世界ジオパークを名乗る糸魚川市民が、ジオと災害の関係性・災害発生の危険性を知ることが大切、市民理解は進んでいるかと問いました。

さらに、税金を使ってジオパーク事業を進める理由は、糸魚川で起こり得る災害への対応が進んでこそだ。逆に言えば、防災学習・防災体制が進まないようでは、世界ジオパークのまちを名乗る資格はないとまで申し上げました。

その後の働きは、動きは承知して評価しておりますけれども、4年間の取り組みや成果があれば、この機会に、市長、教育長、消防長それぞれから、お答えをいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

おはようございます。

お答えいたしますが、市立の各小中学校、地域の特性に応じて学習訓練を行ったり、あるいは避

+

難訓練を行ったり、防災の心構えを育てているというのが現状です。

「まるごと糸魚川」という資料集には、９９ページに、糸魚川ジオパークを学習する皆さんへ、それから教職員の皆さんへということで、豊富な自然と、それからジオサイトの危険というものが、背中合わせであるというようなことまで解説しております。

平成２４年からは、根知小学校が地域と一緒に、防災教育やキャンプを実施しておりますし、それからヘルメットは購入しておりますし、それから防災頭巾は地域の方々からつくっていただいたりとかしております。それから上早川小学校では、焼山ジオサイトを活用した火山災害の学習をしておりますし、その中での話し合いによって、どうしてもヘルメット、子供たちの安全のためにはヘルメットとゴーグルが必要であるというようなことから、それらの物を準備したりしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

当本部といたしましては、市の職員として、また消防職員として、また消防団員としてそれぞれの立場で、子供たちや地域の皆さんへお伝えできることを、今後も継続してお伝えしていきたいというふうに考えておりますし、その成果は徐々にではありますが、あらわれてきているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご承知のとおり、この世界ジオパークがユネスコの正式事業化になってという話であるわけですが、世界ジオパークは防災というものはございません。そういう中において、我々が２００８年にジオパークを取り組むといったときに、ジオパーク委員会がこの火山もと言ったときに、私はやはり防災も入れるべきという形で防災を入れさせていただきました。自来、私はこの防災を、やはりジオパークの大きな位置づけするべきという形の中で、今、防災教育チャレンジプランの中の審査員にもなっておりますし、またそういった教育委員会もまた、その中にありますので、その中に加わらせていただいております。

そんなことから、地域の懇談会、またはいろんな市内の、このジオパークでの会合であったり、また昨日は、蒲原沢の災害の慰霊碑での参拝などするときにも、いろいろご質問に来られたときにも、やはりジオパークというものをあわせながら話をさせていただいております。

事あるごとに、我々は自分たちの住んでおところを、しっかりと自然を把握することがこの減災につながるんだという話をさせていただいております。地域での懇談会の中にも、それを加えさせていただいて、説明をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

糸魚川で起こるであろう、さまざまな災害への対応ということ、ジオパークの中から学んでいくということは大事なことでと思います。さらに、深めていただきたいと思います。

4年前と言えば、3.11東日本大震災の年ですが、その被害に国民・市民が震え、悲しみ、国の未来を心配いたしました。

糸魚川市では防災講演会を開き、市長が防災とジオパークを絡めてお話をされまして、糸魚川市大野区出身で、東北大学大学院地震・噴火予知研究観測センター教授の松澤 暢先生から、ご講演をいただきました。この講演で、地震・津波災害のメカニズムへの理解が進みました。

そこで私は、松澤先生のような出身者の力を、ジオパークと防災に生かすべきだと提言をいたしました。また、松澤先生をキーパーソンとしたシンクタンク機関を糸魚川に設置して、防災学習・ジオ学習・ジオパーク戦略を進めて、大学の研修会・ゼミ合宿・修学旅行の誘致に役立てまじょうと提言をしたと思います。市長、覚えていらっしゃるでしょうか。

ジオパークがユネスコの事業に認定された今、その時期が来たのではないのでしょうか。改めて提言し、市長の考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、我々はやはりジオパーク活動につきましては、持続可能なまちづくりにつなげていきたいということの中において、修学旅行、また学習・研修旅行を入れさせていただいておる部分があります。そういう中で、今、ご指摘のような、やはりここで学びたいという魅力づくりをしていかななくてはいけない部分があるわけであります。

そういった中においては、今、ご指摘の松澤教授あたりは、非常に知名度もあると思っておりますし、またそういう方々がやるからこそ、また説得力もあるんだろうと思っております。そのように、今、我々、学芸員もかなりそういったところが、ジオパークの目指すところや、ジオパークを注目をするところにおいては知名度が高いわけでございますので、そういったやはり我々、利用させていただける人材があれば、そういうものを使いながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

市長の今のご答弁は、発展させる形というふうになるんでしょうかね。

次の質問の3で、若者の就労ということ聞いていくんですけども、そのジオパークの防災ということ、それを糸魚川でも仕事にしたい若者というものを、今後、つくれないのかなということ、今の市長のご答弁で、私、考えたんですけど、市長、その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

大地を学ぶ人たちがふえておることは、間違いございません。しかしながら、今、活躍する場が少ないのが現状でございます。そういう中においてはやはり、いろいろ研究される方においては、ぜひともそういう地形の合ったところで、そして災害に対して説明できるというのが、一番やはり、市民の皆様方や住民の皆様方が関心が高いわけでございますので、そういうやはり、見出しを出して集めることが非常に私はいいと思っておりますので、そういう研究者が出るかどうか、またそういった興味を持つ方がおられるかどうかは、やはりこれから探しながら、そういったことで防災や減災につながるということになれば、非常に多くの人たちに注目をできるだろうと思っておりますので、ちょっと研究してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そういう流れの中で、質問3の2回目の質問に移りたいと思います。若者の仕事づくりということです。

系魚川の特性を使って、若者の仕事をつくり定住を促すには何をすべきかとの問いに対して、先ほどご答弁をいただきました。

さて、それをやり遂げる主体はどこか、リーダーは誰か、そして責任はどこにあるかということについてなんですけども、市長がリーダーということでよろしいですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

全ての、やはり責任は私にございますので、逆に考えればリーダーシップをとるのも、私がとれば一番いいのだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

少し、記事をご紹介したいと思います。

株式会社ローカルファースト研究所の関 幸子さんが、昨年ネットでアップした記事に、タイトルは「地域創生を担う地方自治体の役割は大きい」ということで、人口減に直面する地方の活力を高めるために何をするかということの1つに、創業への環境整備がある。高校や大学を卒業した若者のうち、地元に残りたい人がいるにもかかわらず、就職先がないことが人材流出につながってい

る。今後、雇用先として期待できるのは、農業・林業等の、従来もうからないとされてきた1次産業の高度化である。規模の拡大や所有と利用を分離するなど、経営手法の合理化によって新たな市場形成が期待できる。あわせて、6次産業化も進め、地域と都心をつなぐことによって、雇用確保を図る。都市と地域との人材のマッチングを図る人材プラットフォームや、住宅支援機能等を強化するなどの手法は有効だ。また、地方創生に必要なのはお金と人だが、地方に不足しているのは予算でなく人材だとも、関さんは書いておられます。

糸魚川市では、このことをどう理解し、戦略を立てていこうとしているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

糸魚川ジオパークの地域特性から生み出されます、農産物・林産物・水産物、これら1次産業と製造業とが連携することによって、それぞれの知識・技術を持ち寄って、共同開発することができるというふうに考えております。また、それぞれの生産システムを合理化することで、企業組織も形成されて、そこに雇用が生まれるというふうなことが理想だと思ってます。

いずれにいたしましても、そういうことの事業連携・創出・雇用が生まれるということについて、地方創生の総合戦略を、絵に描いた餅にならないように具体的に事を動かすということが大切だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

高校や大学を卒業した若者のうち、地元で働きたい人がいるにもかかわらず、就職先がないことが人材流出につながっていると。このことについて、教育長と産業部長、どういうふうにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

糸魚川市で推進している一貫教育の中に、ふるさと愛育成教育というのがありますが、それだけではやはり、なかなか就業につながってはいかないだろうと思っております。

キャリア教育を推進する流れの中で、やはり海洋高校のように地元企業と協力し、そして起業していく。そういう若者の力を育てるということが、今後、必要になってくるのかなというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

+

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

○産業部長（斉藤隆一君）

総合戦略の頭には、「まち・ひと・しごと創生」という文字がついております。総合戦略のやはり大きな柱は、簡単に言えば雇用ということだというふうに認識して、今回の総合戦略の作成に当たってきたところであります。

ただ、議員の言われるように、高校だけに限らずでありますけれども、大学卒も含めまして、また、それ以外も含めましてでありますけれども、ここ数年間の糸魚川市の有効求人倍率は非常に高い数字で推移してきていることは、田原議員もご存じのとおりだと思っています。特に糸魚川の場合、国とか県に比べまして数年間ずっと、糸魚川は高い。しかし、求人と求職のミスマッチが起きているというのが、糸魚川市の現状だと思っています。必ずしも働く場がないということではなくて、働く場はあるんだけれども、結果的には就職したい者と求人をする側の、やはりミスマッチが起きているということでもあります。

これは現状でありますけれども、そういったことも含めて、やはり総合戦略の中でうたっておりますように、創業も含めた地域産業の育成支援ということと、第１次産業にも、当然、雇用の場が生まれてくるという観点でありますので、６次産業化も含めた第１次産業の活性化、経営の活性化というところが、今回の雇用、総合戦略の中での雇用拡大につなげていく一番大きな分野ではないかなというふうに捉えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○１３番（田原 実君）

今後、教育行政と労働行政との連携をつくる策を練るための、プラットフォームというものがしっかりとつくられていくことが必要というふうに考えます。

幸い、海洋高校の取り組みが成果を上げております。評価をされております。この機会に、ご紹介いただければと思いますがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

糸魚川市水産資源産学官連携事業、これは企業家精神の育成と地域振興を目的として、取り組んでおります。新しい産業教育にチャレンジする、海洋高校を支援してまいりました。

海洋高校では、シーフードカンパニーというお店から、サケの魚醤「最後の一滴」を販売するなど、活躍をさせていただいておりますし、また１１月１９日には、農林水産省が立ち上げました「フード・アクション・ニッポンアワード２０１５」におきまして、審査員特別賞を受賞したわけでありまして、審査員特別賞といいますのは、審査員の皆さんからの推薦があって受けられるということでありまして、ほかの賞とは一部違うというところがございます。また、高校が受賞したといいますのは、２０１３年に宮城県の高校が受賞して以来だというふうに認識しております。

また、海洋高校の久保田校長が、１２月１９日に文化協会の１０周年の設立総会でご講演をいた

だいて、「高校がお手伝いするまちづくり」というふうなお話もいただけるということも聞いております。

またさらに、日テレのテレビ局でありますけども、今週から「青空レストラン」、これは宮川大輔さんがテレビに出る「青空レストラン」でありますけども、これの取材に高校に入ると。19日の土曜日には放映されるというふうなことで、幅広く取り組みが情報発信されているという状況であります。

いずれにいたしましても、私も3年前に、海洋高校の生徒とかかわらせていただきまして、三重県の相可高校に行ったわけでありますけども、その際に、1人の男子生徒が向こうの高校生と顔を合わせても、一言もしゃべれなかった男子生徒が、ことし3年生になってキャプテンをやって、都会へ行って、品物を売ってどんどんとしゃべってPRしているという、高校生の成長を見たときに、本当にうれしいなというふうに考えております。そういう子供の成長と企業連携とが、今後、ますますマッチングできるように支援していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

1次産業の高度化と、ものづくりと環境とビジネスモデル教育が、立体的かつ有機的につながった、そして花開いたすぐれた事例だと思います。この流れが、ほかの高校にも影響して、中学から高校の6年間の教育の中で、地域ビジネスモデルを学び、やがて地元でのさまざまな業種での就労に結びつくといいというふうに考えますけど、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

高校の例につきましては、先ほど答弁のあったとおりであります。

他の高校でも、キャリア教育には取り組んでおります。地元企業の方を講師に招いて講演会を行ったり、職場体験、また修学旅行の際に、関西や東京の企業訪問をしたりといったような活動もしております。

高校で、海洋高校のように起業する、先ほど教育長の答弁がありましたが、起業する力というものを育てるキャリア教育は、これから必要になってくるのではないかなと思っております。海洋高校の、大変よい例がありますので、それを参考に各校で取り組みができないか、各校長と協議をしていきたいと思っております。

海洋高校の取り組みについては、起業するというようなことのもう1つほかに、子供たちのコミュニケーション能力が高まっているなというふうに、私も感じました。私も昨年、一緒に三重県のほうに、海洋高校の生徒と一緒に行かせていただいたんですが、一生懸命に三重県の方々に製品の紹介だけでなく、糸魚川市ってどこにあるのかということ、また地図を持ってきて説明をしたりとかいうふうに取り組んでいました。そういった主体的な活動が、子供たちのコミュニケーション

の力を育てるというふうに考えますので、そういった面からも非常に有効だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、食のブランド推進や東京都心での販路の拡大についても伺いたいと思います。

糸魚川の水産資源はブランド化されたものもありますけども、今、シーズンのアンコウですけども、この食のイベントが糸魚川の知名度を上げるものとして地元だけでなく、東京都心でも定着してきましたが、これら地域と都心のつながりを、若者雇用にどう結びつけていくかという点について、お考えのことがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今、ご紹介のありましたアンコウでありますけども、これも、なりわいネットワークが首都圏に行って、商談会の中から縁ができたお店、創業約80年を迎えるというアンコウ鍋のお店で、「いせ源」というところでございますけども、そことの取引が、今、進んでおります。約年間1,000キロ、1トンのアンコウが首都圏のほうへ送り出されているということでございます。

それが、本年の9月になりまして、いせ源さんの社員旅行として産地の糸魚川に、20名ほどおいでいただきました。アンコウが漁獲される現場、それ以外にも糸魚川の市内の生産地を見学いただいて、非常に感動を受けて帰られました。特に、デンカで飼育されてますウナギの現場も見られて、非常にびっくりされていかれたということでございます。

なりわいネットワークの、首都圏での商談会の小さな芽が吹いてきたんだなというふうな受けとめておりますけども、そういうところから、市内の企業が大きくなって、雇用につながっていただきたいなというふうな、期待しておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

つながりづくりは、なりわいネットワークだけじゃないですけどね。

海洋高校の取り組みについては、東京の墨田区議会も視察に来るそうですけども、その経緯について、また、どのようなことを視察・調査していかれるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

東京墨田区の634まちづくり団体とは、私も昨年、交流会に参加をさせていただきました。ま

たその後、六三四塾のほうのまちづくりのセミナーに、海洋高校のほうもプレゼンターという格好で参加をし、また、そのほかにも押上つながりから、この活動が注目されたんだというふうな受けとめております。

当日は、庁舎のほうで簡単に糸魚川水産資源の産学官連携事業の説明をし、その後、海洋高校を見学いただき、シーフードカンパニー能水商店も見学いただいて、1日の行程が終わるというふうな計画で、今、取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

墨田区とのつながりを、都市と地域との人材のマッチングを図るプラットフォームにして、若者就労に結びつけていただきたいと思います。

次に、質問のアプローチを変えまして、若い方に糸魚川に関心を持っていただくことについて伺いたいと思います。

糸魚川21クラブの同志、伊井澤一郎議員が生前、地元の用水に見られるバイカモを大切に、このきれいなバイカモときれいな雪解け水を、糸魚川の環境のシンボルとして生かしたい。農業や環境に関心のある都会の若い人に見てもらって、糸魚川のよさを知ってもらいたいと話をされていたことを思い出します。

大きなヒントになると思います。バイカモがどのようなものか、環境生活課長に伺いたいと思います。また、都会の若い人に伝えて、糸魚川に来ていただくにはどうしたらいいか、これは交流観光課長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

バイカモにつきましては、清流中に生育しているものであり、特に初夏から初秋にかけて、梅の花のような白い花を水中につけている水草でございます。市内では西海地区の釜沢用水や、上早川地区の大山用水のほうに、多く生育しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

若い人に、糸魚川を知ってもらおうという取り組みでありますけど、まず、小学校・中学校の若い人ということで、首都圏での学校、都立中学校、また東京・神奈川・埼玉の私立高校のほうにパンフレットを送りまして、ぜひ、糸魚川に教育旅行に来てくださいといった取り組みをしております。また、そういった校長先生方のモニターツアーを実施しております。

そうした結果の中で、教育旅行はふえているわけですが、そうした子供たちを通じて、糸魚川を知ってもらって、さらに来てもらうといった取り組みを進めていきたいと思っております。

また、SNSを使った情報発信ということで、フェイスブック等を使いながら、若い人たちが結構見てらっしゃるわけですので、そういったものを使う中で、糸魚川を知ってもらって来てもらって、さらには糸魚川に住んでもらうといった取り組みにつながるようなことを、続けてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

わかりました。

糸魚川の環境のよさを、より知っていただいて、課長おっしゃったとおり、糸魚川に来て住んでもらうという、そういう気持ちになっていただくような取り組みを、これからも続けていただきたいと思います。

林業では、地場産の杉材を使った寄木細工パネルの工場ですとか、木地屋集落でのアーティスト・イン・レジデンスですとか、中山間地の学校跡地での木質バイオマス発電所の建設と雇用など、林業をものづくり・環境・エネルギーとコラボさせて若い人の仕事づくりを進めることは、糸魚川でやるべきことだと私は考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

本年になりまして、木質バイオマスなどの研究会というものを地域振興局、それから糸魚川木材連合会、糸魚川市、関係機関の中で、研究会を発足させました。

勉強会をしながら視察、これは福島のほうにおけますバイオマス発電、これは地方創生フォーラムもあったものですから、視察をいたしました。また、長野県の飯綱でのバイオマス発電などの森林資源の有効活用を勉強してきております。

これらの糸魚川における、もう伐期を迎えております森林資源を、川上から川下の中で有効に活用していこうということの取り組みを、関係機関と今、進めておるところであります。

また、クラフトフェアにおきましては、能生マリンドリームから今回、ことしから美山公園で開催していただくことになりまして、また、新たな魅力の発信につながっていくんだろうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

クラフトフェアもそうですけど、木地屋集落でのアーティスト・イン・レジデンス、この辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

それにつきましても、貴重な資源でありますし、貴重な人材だというふうに考えておりまして、もう少し情報の発信に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

きょう、もう1つの提案は、青年会議所が企画しました「7月7日は笹ずしの日」のイベントを、さらに生かそう、使おうというものでありまして、きのうビーチホールまがたまで、徳島県上勝町で若者がアイデアを出し、高齢者をマネジメントして成功した「葉っぱビジネス」のテーマの映画、「人生、いろどり」が上映されておりました。

この例に学べば、糸魚川の裏山にあるササや葉っぱの上に、美しい米のご飯と海と山のおいしい物を盛りつけ、パッケージのデザインを工夫して売る。農業と林業と水産業、ものづくりのコラボレーションを行う。そういった笹ずしを、糸魚川の各地の特色を生かした笹ずしを並べて、もっともっと活用すべきではないかというふうに考えますが、市長、この辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々、自然が非常に多く、大地が非常に広くあるわけでありますので、いろんなものを生かせる部分があるかと思うわけであります。

今、ご指摘の点についても、全く我々といたしましても、食文化という昔からあるものをつなげていくということが、非常にまた、この特徴のある魅力のあるものになっていくんだろうと思うわけでございますので、もう一度、今、笹ずしは笹ずしとして、それを立派な1つの商品とさせていくことが重要でありますし、まだまだそういうものが、潜在的に眠っているんじゃないかなと思っておりますので、そういった掘り起こしをしながら、この我々の長く培ってきた文化、そして自然の資源を生かしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そういったものを生かして、いかに若い人の働き場をつくるかということがテーマなんですけど、その点についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、そういったところが、少しずつ開いてきているのではないかなと感じるのは、やはり今、6次産業化の中においても、そういった今、動き始めておるわけであります。そういったところを、今、若い人たちが雇用が始まりますし、そういったところを突破にしていくこともできるし、今、やはり能水商店が動いておるところも同じだろうと思っておるわけでありますが、少しずつ今、開いております、例えば徳合においても、そういった機運も高まってまいっております。そういったところを、広げていきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

今回は、糸魚川の若い人の仕事づくりの質問を重ねてきました。

私は、若い人の想像力、イマジネーションとクリエイティビティ、そして行動力に期待し応援をしています。今、糸魚川にいる若者、これから育つ若者、そして今まだ、ほかの場所にいる若者が、明るい未来の糸魚川をみずから考え、みずからつくるために、大人の私たちは何をすべきかをいつも考えています。

ただ、世代のギャップ、価値観や技術力の違いがあります。ありますが、そこを埋めてくれるのが糸魚川の自然やおいしいものを一緒に味わったり、祭りやイベントを楽しむことだったりするわけです。ですから、糸魚川の持つ魅力を全国の若い人たちに伝えて、糸魚川に若い人が来てくれる仕組み、働きに来てくれる仕組みづくりに全力投球すべきだと思います。市長、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全くそのとおりだと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

やるべきことは、さまざまあります。まず、若い人の生活に欠かせない便利な通信環境、そして清潔な設備がある気楽に安く使える住まい、地元の人との交流の場を準備して、市内の気に入ったところに滞在しながら、糸魚川での働き方を考えてもらう。糸魚川での未来の働き方を提案してもらい、チャレンジしてもらおうと。私たちはそのサポートを徹底的に進める。

実は、こういった取り組みは、既にほかにあります。ありますので、そこに負けない環境整備を

して、若い人たちに糸魚川の魅力を伝え、足を運んでもらう。それが今、行政が最優先でやるべきことの1つだと思います。その仕組みについては、次回も質問し提言したいと思います。終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

○7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一です。

発言通告に基づいて1回目の質問をさせていただきます。

1、北陸新幹線えちごトキめき鉄道及び路線バスについて。

(1) 北陸新幹線沿線の騒音・振動について。

試験走行から1年、開業から9か月が経過しようとしております。既に解消されていなければならない課題と思いますが、これまでの経緯と現状、鉄道・運輸機構の対応と今後の市の対策について伺います。

(2) 北陸新幹線糸魚川駅開業2年目に向けての利用促進策について伺います。

(3) えちごトキめき鉄道について。

発表された上半期の経営状況と現在の課題について、市の考えを伺います。

10月に行われたトンネル内での避難訓練について、その内容と市のかかわりについて伺います。

(4) バスの利用促進について。

過疎化・高齢化地域の路線維持対策として期待される、路線バスで宅配便を輸送する「客貨混載バス」の導入はいかがでしょうか。

JR東日本及びJR西日本は北陸新幹線にスキー・スノーボードを置くスペースを設置するそうですが、その内容と市内スキー場への2次交通としてのバスの対応はいかがでしょうか。

県では団体貸切バス値上がりによる観光客減少対策として緊急支援を打ち出しましたが、市内での反応及び市の独自策の考えはいかがでしょうか。

列車との接続時間について利便性はいかがでしょうか。

2、農業政策について。

(1) TPP（環太平洋連携協定）の大筋合意について、地域農業への影響を市はどのように捉えているか伺います。

関税撤廃の例外とされた農業重要5項目の約3割が撤廃の対象となったことについて。
約8万トンの米の輸入枠について。

政府・与党が示した耕作放棄地の固定資産税を現行の1.8倍に強化することについて。

(2) 糸魚川市の農業の現状について伺います。

ことしの米の作柄と台風１５号による影響と対応について。

就農人口の動向について。

広域協定組織の現況と今後の取り組みについて。

農協法改正による農業委員会について。

以上、１回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、本年５月から２次測定を実施いたしており、調査が終了した地区から、順次、騒音・振動の結果が通知されております。

今後、鉄道・運輸機構では、音源対策と住宅の防音工事を実施し、市といたしましては、住民と機構との調整を進め、早期解決に向けて取り組んでまいります。

２点目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議で、ワーキングチームを設立し、ＪＲ西日本と協力をしながら、利用促進に努めてまいります。

３点目の１つ目につきましては、旅客収入実績では計画額を上回っておりますが、減価償却費が大きいことから営業利益が赤字となっております。

２つ目につきましては、１０月２２日にえちごトキめき鉄道が、頸城トンネルでの列車火災を想定した訓練を実施し、重傷者を搬送する役割で参画いたしました。

４点目の１つ目につきましては、一部の路線で実施いたしております。

２つ目につきましては、スキー・スノーボードなどの大きな荷物に対応できる貨物置場を設置するものであります。また、シャルマン火打スキー場では、今シーズン、ＪＲとタイアップしたシャトルバスの運行を計画いたしております。

３つ目につきましては、現時点で市内に対象となる施設はありませんが、今後の動向を注視してまいります。

４つ目につきましては、通勤・通学や通院を主とした交通手段としており、列車との接続が課題であります。

２番目の１点目の１つ目につきましては、無関税枠や関税の大幅引き下げなど、今後に不安を残す内容と受けとめております。当市では、中山間地域が多く、規模拡大や経営の効率化が容易でないことから、今後、政府が打ち出すＴＰＰ対策を注視する必要があると考えております。

２つ目につきましては、具体的な制度運営について、まだ明確ではありませんので、今後の動向を注視してまいります。

３つ目につきましては、国の検討結果を注視してまいります。

２点目の１つ目につきましては、上越地域の作況指数は１０２の「やや良」で、コシヒカリの一等米比率は１０月末現在で７２．５％と、県全体より低い結果となっております。

原因といたしましては、台風１５号が大きく影響したものと考えており、今後、関係機関と対策を協議してまいります。

2 つ目につきましては、農林業センサスの平成 17 年の農業就業人口は 2,464 人、平成 22 年では 2,000 人と 5 年間で約 19% の減少をいたしております。

3 つ目につきましては、多面的機能支払については 2 協定、中山間地域等直接支払については 15 協定、環境保全型農業直接支払については 1 団体であり、今後、これらの各協定を 1 つにまとめることにより、中山間地域の農業の推進役を担うことを期待いたしております。

4 つ目につきましては、農業委員会の役割も、農地法の許認可に限らず、農地の適正利用により農業振興に資するよう求められ、今回の制度改革につながったものと認識いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7 番（田中 立一君）

新幹線の騒音問題であります。5 月から測定をされて、ようやく結果が出たところから交渉に入っているというお話だったように思いますけれども、ようやくという印象があります。このスピード感については、どのように捉えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

スピード感については、やはり遅いというふうに感じておるところでございまして、その辺のところにつきましても機構側に対して、早くやってくれということで要望いたしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7 番（田中 立一君）

本当にそのとおりですね。

やはり毎日、日々の暮らしの中で困っている住民にとって、一刻も早く解決してもらいたいという気持ちは強いわけでありまして。その中でスピード感がないと、やはりそういった住民の気持ちを無視している、あるいは軽視しているというふうにもとられかねないというところで、非常に早くこれを解決してもらうためにも、また、市のほうからもよろしくお願いしたいと思います。

市のほうに対しては、何度もこの間、現場のほうに足を運ばれたり、また、機構のほうにも行かれたというお話も聞いてはおるんですけれども、住民の話を聞かれた方々からは評価の声も聞かれていますけれども、およそこれまでに何回ほど足を運ばれて、何人ぐらいの方からそういう情報を得られたのか把握されていたら、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

回数的には、しっかりと覚えておりませんが、その都度、現場のほうへ赴いて、住民の方から、例えば何か要望があった場合には、現地を確認する中で、また、機構のほうへ要望いたしておりますし、機構のほうへは6月から計6回ぐらい行って、要望いたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

まず、住民の皆さんの意見等なんですけれども、非常に幾つかの集落にまたがっているので、いろいろ個々によって内容も違ってくることがあります。その方たちに、恐らく皆さん市の方たちも忙しい中で、全部、説明したりだとかは、なかなかお会いしたりとか難しいんじゃないかと。やはり、説明会だとか、あるいは意見交換をする場とかそういったものが必要なんじゃないかなと思います。5月以降、説明会・意見交換はされたか、また、今後される予定があるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

機構と、それから地区住民の方との説明会等については、市も参加していろいろ意見を聞いたりしております。ただ、機構を除いて、例えば市と住民だけの説明会だとか集まりというのは、今までは行ってはおりません。その必要が、やっぱり出てくれば、それはやはり行っていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

その必要が今、生じてきてるんじゃないかなと。また、その辺の情報もあわせて必要ならということなんですけれども、やっていただけたらと思います。

各機関や各団体等との連携状況はいかがなかなと。まず、先ほど6月から6回、機構のほうに行かれたという答弁をいただきましたけれども、これは全部、長野事務所のほうに行かれたということでしょうか、それとも東京とか、あるいはほかの機構とかそういったところへも行かれたということでしょうか。鉄道・運輸機構との連携状況はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今回の騒音対策については、富山のほうと長野のほうと2つの機構・事務所で分かれております。そんなことから、両方あわせて6回行ったということでございます。

連携については、やはり区なり、それから住民の方からいろいろな意見をいただいたその都度、機構のほうへ要望をいたしておりますし、また、機構のほうからもしろんな情報についてはいただいております。それをまた、地元の方へも返しておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

6回、各富山・長野のほうに行かれて、それでこのスピード感という、遅いという印象を受ける、機構のほうの反応というのはいかがなんでしょうか。

それと、行かれて住民のほうに説明といいますか、その説明は個々にされているんでしょうか、それとも何らかの形をとって説明をされているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

機構の対応等については、やはり私ら自身、遅いという感じを持っております。それで、要望をいたしておるということでございますし、個人の方から要望をいただいたものについては、個人の方にまたフィードバックしておるということでございますし、区長さんを通じた場合は区長さんのほうへ、またその旨をお伝えしておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

次にじゃあ、関係住民及び関係地区の区長さんとの連携、あるいは情報共有は、どのようにされておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

定期的な会合等は持っておりませんが、問題とかそういう意見が出た折、連絡をとるようにいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

柱道、鶉石、下小見、上小見等、能生地域においてはあるわけですがけれども、いずれの区長さん、

あるいは区の方と、そういう情報を持っておられるというふうに考えてよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

特に柱道に関しては、区長さんと連絡等はとり合っておりますけれども、鶉石の方は2件だったもので、そこについては、市が個人に対応しておるということでございますし、下小見等については、一応、説明会等でお伺いして、その後、あまり意見等はいただいておりますので、その辺のところも確認はいたしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

よろしくお願いします。

2次測定の結果が出されているということなんですけれども、市のほうでは測定のほうの結果を全部、把握されておられるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長 〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

測定結果については、機構のほうは非公式ということになっております。

ただ、例えば対象家屋が大体、能生地域全体で60件程度というふうにお聞きしておりますし、大体、基準値を超えるのは半数近くじゃないかなというような感じは持っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

じゃあ、市のほうで捉えておられる測定の最大値等の数値は、どれぐらいのものなのか、それから、騒音の測定値の出し方なんですけれども、私も見てやったところでは、1日に数十本、列車が通るのを全部わかってるわけなんです、その測定されてる中の一番最大なものをとるのか、それとも何かほかの方法でとるのか、測定値の方法はどのようにされているのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

一番大きいと思われるお宅の測定値について、機構ではなくて個人の方からお聞きした段階では、85デシベルだということでお聞きしております。20本の対象のあれをとって、一番、その1本ごとの一番大きい数字をとって判断するというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

基準値は確か70と。その中で85、非常に大きい印象を受けます。どれぐらいになるか、恐らく聞いても、受け方や何か難しいところがあるのかもしれませんが、非常にやはり、日常の中で困っておられるなというところであります。

2次測定は全部、調査は終わったということでしょうか、それともまだ、これから来るような話、測定に来られてるという話も聞くんですけども、もし、まだこれからあるなら、一体いつごろ終わる予定なのか、その現状はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

能生地域については、2次測定については全部、終わってるということでございます。

今回、新たに測定に入るということでお聞きしておるんですが、それについてはトンネルの緩衝口を塞ぐという工事において、緩衝口を塞ぐ前と塞いだ後について、音源がどうかということで調査に入るということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今、騒音調査は機構側のほうの調査を聞いているわけなんですけれども、そのほかに国、あるいは県のほうで騒音調査に入られたという話も聞くんですが、その辺はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

環境省のほうで国の環境基準の、新幹線ができた後の環境基準について、測定に入っておるということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

その環境省のほうの測定のいかんによって、また機構への働きかけというのはあるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

やはり、環境省の基準でオーバーした場合については、基準値になるように、要は音源対策について行うということになるかと思います。ただ、その時期だとかそういうものについては明記していないので、例えば新幹線ができたときには、「可及的速やかに」というような表現はなされています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

補償の話も今、進んでいるというふうに伺っているんですけども、住んでいない、例えば柱道においたら集会施設等があったわけですね、真下に。そういうところの測定をされているのかどうか、そういったものは、補償の対象になっているのかどうか、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

測定については、柱道なら柱道の全体の、まず1次測定をやって、対象のところは2次測定という形になっておるんですけども、例えば今の集会所みたいな施設については、公共的なものについては病院だとか学校だとかというのは、常時、人がいなくても対象になりますけども、基本的には常時、人が住んでいる居宅が対象だということでありまして、集会施設は、機構の言う基準では対象外だということで、お話はお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

5月の説明会のとき、やはり、その集会所でやってる最中に新幹線が通って、その間、話を中断しなければいけなかったというような話も聞いております。やはりこういったものも、対象にするように話しかけるべきじゃないかなと思うんですけども、その辺の捉え方というのはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

確かに、集会をやっておっても、通れば話ができないぐらいの大きさでありました。ですから、対象外というのはいかなるものかなという感じはしておりますし、その旨、機構にも要望はさせてもらっておりますが、なかなか基準ということで、ちょっと厳しいものがありますけども、その辺は実情をやはり、今後も伝えていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それで先ほどから、恒久対策工事をするための測定が、これから始まるということで、穴を塞ぐ等、話が今ございましたけれども、9月議会だったかと思うんですけども、このような恒久対策工事をした場合、また別な問題が出てくる可能性があるということを、答弁の中にあっただんですけども、別な問題というのはどういうことが考えられるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今、音源対策としてトンネルのほうの工事を行うということで、今、最初にやるのは、緩衝口を塞ぐという工事であります。緩衝口を塞いだ場合に、例えば能生地区では、そこでよくなるかもしれないけども、今度はほかの地区へ行って、その塞いだことによって、ほかの地区に影響があるかないかという意味で、そういう形でお答えさせていただきましたものです。

今後、緩衝口を塞ぐ、それから吸音板だとか、明かり部分については吸音板等の設置を行います。そのほかにも、どうすればいいのかというものも、まだ検討中だということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

この騒音について、ＪＲとの連携等、対応等の話し合いというのは、いかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

施設そのものは機構の施設なんですけども、実際、ＪＲが使っておるわけです。緩衝口の工事も、ＪＲ西が行うということで、機構とＪＲと締結を結んでおるということでございます。そんなものですから、締結後は速やかに工事を行っていただきたいということで、機構にもお話をしておりますし、ＪＲにもその旨をお話をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今、地方創生の総合戦略版等を作成したりして、人口減少対策が叫ばれているときなんですけれども、住んでいる住民からは、こういったところからは、住んでいられないというお話も聞いたりもします。また、都会から移住された方が、ここは静かなところと思って来たんですけども、こん

+

なはずじゃなかったという声も聞きます。そういった声もありますので、引き続き住民の立場に立って、いろいろと対応のほうをお願いしたいと思います。

また、機構側から提示されている補償等についても、知識を持たないから、なかなかどうやったらいいかかわからないという声もあります。いろんな声がありますので、何度も言いますが、住民の立場に立って、対応していただくことを要望させていただきます。

2番目の、2年目に向けての利用促進策なんですけれども、改めて7月の4日間で、1日平均1,006人という数字が、市の独自調査の中で示されましたけれども、当初、想定して準備を進めていました2,700人との開き、改めてこのことを、どのように捉えておられるかをお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

利用促進については、1日1,000人程度ということなんですが、やはり今回、新設された駅の中で、一番利用人数については低いという形になっておりますので、やはり今後も利用促進を図って、利用客をふやしていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

やはりこういった独自調査というものは、いろんな基礎調査の中で必要だと。今後も続けていきたい旨のお話もいただきましたけれども、これまでの間に、2回目の独自調査等をされましたでしょうか。それとも、今後、行う予定があるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

11月に自由通路の利用調査にあわせまして、一応、新幹線の利用調査も行っております。ただ、まだ数字については調査といいますか、調整中といいますか、調べている最中で、数字等はまだお伺いはしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

伺っていないというのは、これはどこが主になってされたところなのか、それと、いつごろそれがわかるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

失礼しました。建設課で行っておりまして、そういう意味でちょっと、伺ってないというような表現をしてしまいました。申しわけありませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

失礼しました。

建設課のほうで、11月末に調査をいたしまして、今、集計中でありまして、結果はまだ出ておりませんけども、もうしばらくの間で出したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それは、どういう目的でされたのか、それからいつ、何日間されたのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

期間については1日でございます。調査の内容ですけども、自由通路を北口から南口のほうへ向かっていく人数、南口から北口のほうへ向かっていく人数。それから、新幹線の金沢のほうからとか東京のほうからとか、方面別に乗降客の調査をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

1日の調査でどれだけの、大体いつかということもまだ、伺ってないんですけども、どういうこれは目的のためになっていくのか。また、7月に行った4日間の調査との整合性といいましょうか突き合わせは、今後されていくのかどうかはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

7月に行ったような独自調査については、今後とも行っていきたいというように思っておりますし、3月に今のところ予定しておりまして、1周年、1年たってどうかということも、見きわめていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

やはり3月のことを考えているなら、今、やはり夏にやったのと同じ内容で調査をすべきかなと思います。やはりそういったものが、だんだんいろんな面での基礎資料となっていって、それが今度、利用促進につながっていくと。また、そうしなければ、利用促進の対策も打てないんじゃないか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

定住促進課が7月に調査をいたしましたのは、今ほど課長説明しましたように、新幹線の利用状況を独自に調査するというので実施をいたしました。

それから、建設課長のほうで答弁申し上げましたのは、自由通路の利用状況というのを主目的に調査をしたものであります。ただ、あわせて新幹線の改札口、あるいは在来線の改札口のほうからの乗降客の数も、あわせてカウントしたと。そういうデータも当然、新幹線利用者の推移の中で利用してまいりたいと思っております。

その後3月に、また新幹線の乗降客の調査をいたします。そういう時系列の中で推移を比較する、状況も分析いたしまして、今後の利用促進に役立てていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

3月に、また調査をするということなんですね。

ダイヤの発表というのは、去年は確か今ごろだったかなと思うんですけども、その辺の情報は把握されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

ダイヤの発表については、12月中旬だというふうにはお聞きしておりますが、いつだということについては、まだ正式にはお伺いしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

利用がやはり、ダイヤにも大きな意味があって、持ってくるんじゃないかと思います。

少し具体的なことを伺いますけれども、まず駐車場についてであります、4日間の無料は非常に好評ですね。本当にうれしいという声が聞かれます。

一方、広域観光のほうでの周知はどれぐらいか。一生懸命されているようなんですけども、まだまだ浸透していないんじゃないかなという印象がありますけれども、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ご指摘のように、北アルプス日本海広域観光連携会議でも、駐車場の利用促進に向けた周知を行っているところですが、まだまだ不十分な点があります。そのため、先日も会議を開きましたけども、利用促進に向けて周知を図るようお願いをしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

先ほど私のほうで、南北自由通路の交通量の調査日を1日と言いましたけども、11月11日と11月15日、平日と休日の2回やっておりますので、訂正させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ちょっと戻りたいところですが、時間がないので駐車場のほうを続けます。

なかなか駐車場の評判が、4日間の無料はよくて、利用したいと思って行ったときに、今までそんなことはないんですけども、あいてるかどうかが行くまでわからないということで、どちらの駐車場を利用すべきかというのを悩む話も聞きます。事前にどこかで、駐車場の空き情報というのを示せる方法はないかということなんです、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

駐車場の空き情報ですね、南口広場のパークアンドライドのほうには出ておるんですけども、ヒスイ王国館のほうや何かには、実際、行ってみないとあきがわからないという状況になってきます。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午前11時59分 休憩

午前 11 時 59 分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今、駐車場のほうですけども、昨年に比べまして 60% 以上もオーバーしてるという状況にあります。インターネット等で空き情報を出せばいいんですけども、その辺につきましては、南口といえますかアルプス口のほうと、それからヒスイ王国館のほうと一緒に、ちょっと検討させてもらいたいと思っています。

○議長（倉又 稔君）

田中議員の一般質問の途中ではありますが、昼食時限のため暫時休憩をいたします。

再開を午後 1 時といたします。

午後 0 時 00 分 休憩

+

午後 1 時 00 分 開議

+

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

午前中に引き続き、田中議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7 番（田中立一君）

駐車場ですけども、先ほどの答弁の中で、現在 6 割の稼働率という説明をいただきました。イベント等では、満車になることもあるんじゃないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

稼働率が 6 割ということではなくて、昨年との対比で 6 割の駐車台数がふえたということであります。ただ、ヒスイ王国館のほうは屋上もあります。ですから、よっぽどのとき以外は満車にはならんかなということで考えてございますけれども、ただ、イベント等のことはありますので、そうし

た場合、満車になったときどういうふうにするか、その辺をどういうふうに周知をするかということで、検討させてもらいたいというものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

行ってみたら満車だったとか、あるいは入れるところを探すために、時間を食って新幹線におくれたということがないように、対応のほうをよろしくお願いしたいと思います。

1階のジオパルですけれども、2年目に向けて、ことしは大変、プラレールやジオラマ等、好評だったわけですけれども、リピーター確保策等、新鮮さを保つ、何か対策等は考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ジオパル、今のところは好調を維持しておりますけれども、だんだん施設が陳腐化してくるといった課題もあるかと思えます。そうした中で、新年から、1月からイベント等の開催、あるいはジオラマにつきましても、鉄道ファンを中心としたPRに努めてイベント等を開催する中で、誘客に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

特に、イベント等は考えていくに当たって、施設そのものについてのそういう対策というのは、何かあったらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まだ、オープンして間もないことでありますので、ハード整備等については現段階では考えておりませんが、ソフトを充実する中で、費用対効果も考えながら誘客に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

よろしくお願いします。

2次交通ですけれども、ことし、いろいろとイベント、あるいは事業をされる中で、2次交通いろいろとありましたが、その中でレンタサイクルを取り上げてみたいんですけれども、非常にこれから伸びる可能性があるんじゃないかなと思います。サイクル人口というのは非常に多いので、まだこれから呼び込む工夫というのが必要かなと思います。サイクルステーションの設備、あるいは設置ということは考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在、糸魚川駅を中心に、2カ所でサイクルステーションを設けておりますが、今、マリンドリーム能生等で、新たなサイクルステーションの設置ができないかということで、施設管理者と協議を進めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

そのサイクルステーション、マリンドリームにあればいいなと、この後、言おうと思ったんですけれども、ぜひ、設置したらいいなと思いますし、その中身が問題じゃないかなと。

今、駅周辺に2カ所あるといいますけれども、恐らく受け付けをして、あるいはそれを出ていくに当たってのいろんな注意事項等される程度かなと思うんですけれども、他のいろんな先進地でのサイクルステーションという考え方と、少しまだ、おくらしているような気がします。サイクルステーションはいろんな機能を兼ね備えたところもたくさんあります。そういった面で、本来の意味のサイクルステーションをやっていったらどうかということについては、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

サイクリングステーションにつきましては、現在、今のところ簡単な変速機付きの自転車ということでありますけれども、欧米人はより高度な形のサイクリングを楽しまれるという部分もありますんで、その辺につきましても、今、北口のほうではやっておりますが、どう取り扱っていくか検討していきたいと思っておりますし、現在、北アルプス日本海広域観光連携の会議の中で、白馬村、あるいは小谷村、大町市と連携して、サイクリングの取り組みを、今、検討しております。その中で、先進地の事例も参考にしながら、より利用しやすい、また楽しんでいただけるようなサイクリングステーションにしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

似たようなものなんですけれども、いろんな先進地の例を見ますと、観光施設の今言ったマリンドリームもそうなんですけれども、いろんな商業施設、あるいはコンビニ等にサイクルピットを、自転車を置くスタンドを設けるとか、サイクリングする人が寄りやすいような設備を支援する動きはあります。そういうことをやることによって、また、そのお店やら地域も活性化することもあると思うんですけれども、そういう考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

インバウンドを進めていく上でも、ご指摘のようなサイクリングをどう生かしていくかというのが課題になっております。こういった点につきましても、今、ご提案のお話も含めながら、どう進めていけばいいか検討を加えて、いずれにしましても、今よりバージョンアップできるような形で、取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

1回目の市長答弁で、ワーキングチームをつくって、ＪＲ西と協力していく云々の答弁がございましたけれども、このワーキングチームの中身と、具体的な何かがあったらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ワーキングチームの名称であります。現段階では仮称であります。〔北陸新幹線糸魚川駅利用促進に向けた戦略会議〕という名前で設置をしたいと。設置につきましては、現在12月24日に設立をしたいと考えております。参加機関であります。〔ＪＲ西日本金沢支社と新潟県、さらに長野県、そして北アルプス日本海広域観光連携会議の構成自治体で、今、構成を考えております。〕

開業してから半年以上がたつ中で、現状、あるいは課題というのが浮き彫りになってきました。これを踏まえる中で、今後、どうやって糸魚川駅の利用促進をやっていくかということ、連携しながら考えていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

非常に期待したいと思いますが、これの事務局等は、どちらが持ってやるか決まっていたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○ 交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

この会議につきましては、私ども糸魚川市が呼びかけ人として、始めようと考えております。

こうしたことから、糸魚川市が事務局としてこの会議を運営したいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

よろしくお願いします。

開業時は、世間も注目しておりましたし、マスコミも多く取り上げました。2 年目ということは、本当に正念場になってくるんじゃないかなと思います。来年は、北海道の新幹線も開業して、そちらの注目も高まっているとこですんで、ぜひ 2 年目、飛躍できるような取り組み、隣の上越市のほうでは、大河ドラマの上田市と連携しての話も聞いたりもします。ぜひ、こういったワーキングチームの働きを、期待してみたいと思います。

何か、具体的なイベントを、このワーキングチームに限らないんですけども、利用促進に向けてのこれからのイベント等あれば、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○ 交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

初年度は、イベントを中心に誘客に努めてまいりましたが、次年度以降、来年度以降につきましては、旅行商品を造成する形で、具体的に旅行会社と連携する中で進めていきたいと思っております。現段階、ＪＲ西日本の営業本部、大阪の本社と新たな旅行商品がつかれないかどうか、今、具体的な協議に入っております。4 月以降、新たな旅行商品を造成すべく、今、取り組みを進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

えちごトキめき鉄道でありますけれども、上半期の経営状況等、先ほど伺いましたけれども、改

めて糸魚川市の出資額、それから開業後に支援する内容、固定資産のこととか交付税とか伺ってきているわけなんですけれども、具体的に教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えします。

出資額については、2億2,040万円でございます。それから、市の支援といたしましては固定資産税相当分を補助するということと、その補助に対して交付税参入額が30%あるということで、その30%分についても補助を行うということで、並行在来線への投資・支援スキームに関する覚書ということで調印がなされています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それは伺った上で、先日、リゾート列車の「雪月花」が、4月23日から運行開始の報道がされました。待ちかねた発表というところでありまして、この列車に、えちごトキめき鉄道の経営改善の切り札として、我々も期待しているところであります。我々も何度もこの情報について求めたけど、今までなかなか教えていただけなかったんですけど、ようやく具体化したなと思うところなんですけれども、先ほどの市長答弁の中で、このえちごトキめき鉄道の経営状況において、減価償却が大きくて、まだ赤字の原因となっていると云々の話があったかと思うんですけれども、このリゾート列車の建設費、あるいは収支というのはどんなような形になっているのか、把握されていたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

リゾート列車そのものに対する出資だとかそういうものは、市としては行っておりません。それについては、経営計画の中で、一応、定められておるものでございまして、市としては、その分に対する別の出資というものはありません。これについては、やはり経営収支の改善につながればいいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

建設費もわからないということでしょうか。

それから、この列車を新造するに当たって、デザインはもう発表されましたけども、中身的なデザインとか、あるいはコンセプト、運行形態、それから今回、料理や運賃も検討中ということで、

それも発表されましたけれども、これらについて市のほうの要望だとか、あるいは考えというものは伝えたりされていたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

デザインだとかそういうものについては公募されて、選定委員会の中で決められたというふうでございますので、直接、市がデザインに関して意見を申し述べたということはございません。

リゾート列車に対する運行だとか、料理だとかそういうものについては、まだ公表されてはおりませんけれども、市としてどうすればいいかとかというようなものについても、意見そのもの、具体的な意見等は申し上げておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

リゾート列車につきましては、今、糸魚川駅と、それから上越妙高のほうを走るわけでございますけれども、糸魚川市としては、前々からぜひ、大糸線に走ってもらいたいという要望はしておりますが、今のところ、来年の4月23日に運行開始するんですけれども、当面は、トキめき鉄道の線路だけ走ると、そういうことでやっていくと。したがって、トキめき鉄道以外のものにつきましては、将来的には拡大をするんですけれども、今現在は、トキめき鉄道の中でということであります。

当然ながら、糸魚川市としては大糸線とか、そういったことを、ぜひ利用してもらいたいということで、要望はしてるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

運行形態のほうは、そういう要望をされてるということですが、今回あわせて、かなり料理のほうにも力を入れておられると、この辺も期待したいなと思います。

料理の食材、あるいは越乃 Shu * Kura のような、非常にバリエーションに富んだお酒等、糸魚川にもそういった食材があるわけですが、そういったことの要望というのはされているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今、料理のほうは、越後上越フルコースというようなもので、有名な料理人を使ってやっておりますけども、その中で、糸魚川のほうからの食材もということで、糸魚川のお店屋さんからということで、今、検討してるというものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

もう1点、これも検討中ということで、運賃がそれでも公表されておりますけれども、運賃に対することについて、市のほうではどのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

運賃と料理のほうと、セット料金であります。

したがいまして、今、一番高いのは1万4,000円とか6,000円とか、それぞれのコースによって雪・月・花コースということで、3種のコースによって料金が違うということであります。乗車料金と料理が、セットであるということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それは、新聞に報道されたのでわかるんですけども、この料金・価格というものを、例えば越乃Shu*Kuraを例にとってみても、かなり高額である印象が、どうしても免れないんじゃないかなと。その辺を、ターゲット等を勘案しながら、一体これは、適当に思っておられるかどうかということなんですけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今ほど、副市長のほうで申し上げました案で、トキめき鉄道のほうで検討しておるということでございますが、ほかのリゾート列車の料金等を参考にしながら決めたというふうにお聞きいたしております。まだまだ、いろんなバリエーションも考えられますことから、今後、運行する中で、トキめき鉄道の中でさらにまた、検討を深めていきたいというふう聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

+

○ 7 番（田中立一君）

その次のほうに入ります。

トンネル内の避難訓練、これを初めてされた。非常にいいことをしていただいたというふうに、私は思っているんですけども、やってみての反省点等、ありましたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○ 消防長（大滝正史君）

お答えします。

今回、訓練を実施したわけですが、トキめき鉄道、糸魚川市消防本部それから警察等、関係者 60 人ぐらいでの訓練ということであります。当本部も消防車両、救急車等、4 台ほど出動をして、訓練をいたしました。

実施日時は、先ほど市長答弁のとおりなんですが、頸城トンネル内での列車火災を想定して、トンネルの斜坑付近に停車した車両から、負傷者とか乗客を、安全にトンネル外へ救出、避難誘導するという訓練でございました。

ということで、課題・反省点ということでございます。何点かあるんですけども、まずは、人命最優先でありますので、安全・迅速・的確にこの危険な場所から救出する、避難させると、そういうことが課題かなというふうに思います。

それから 2 点目としまして、関係機関が知り得た情報を、共有することが重要であるというところであります。

それから 3 点目といたしまして、今回は、徳合の斜坑で実施をしたわけですが、このトンネルの斜坑に防災扉を設置したということで、これは J R 時代にはなかったものであります。その確認ができたということで、より安全度が上がったのかなという捉え方でございます。

それから、消火活動ということで申しますと、原則的には、列車はトンネル外で停車をするという原則でございますけれども、今までもありました、トンネル内の消火器等も設置してあるということで、トンネル内には 70 本の消火器が設置してあるというようなことも、再度、確認をすることができたという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

今、消防長言われたように、トンネル外に出るのが、今まで基本だったわけです。J R のときには、とにかく一刻も早く、トンネルの外に出るのが原則だった。

今回は、トンネルの外に出るんじゃなくて、そこにとまって避難させると。この変更になった理由というのは何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

トンネル外へ出るという原則は、変わっておりません。今回、斜坑の付近でとまったということは、最悪の事態を想定してということでの、そういう場合もあるという想定での訓練でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私が調べた中に、原則はそれで原則かもしれませんが、ＪＲ時代は3両以上だったと。今は1両、あるいは2両の車両なので、他の車両に移ったりすることができない。なので、そこにとまって、斜坑に避難するという話も聞いたりもするんですが、それはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

車両の数が少ないということで、今、議員言われるような部分もあろうかと思えますけれども、原則は変わっていないというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今回、斜坑を利用したということですが、一番多いのは1両編成、ワンマン運転であります。その際の、乗客の避難誘導、最寄りの駅、それから本社、消防へのそういった通報の仕方と救助の依頼。そういったことでワンマンの場合、いろいろと課題が出たんじゃないかと思うんですが、その辺の話はないんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

列車には、1名ないし2名の乗務員がおるところから、トキメキ鉄道のほうへ連絡をする。そこから消防本部なり、関係機関に連絡をするという体制でございます。このことは、ＪＲ時代と全く変わっているものではなく、そういうような連絡体制で、通報が入るというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

トンネル内でのこういう事故等、あるいは車両火災等の場合の、連絡を受けての救助ルート、避難ルートというのは、もう決まっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

今、斜坑のことで申せば、当消防本部もそれぞれの斜坑の場所、それからどういう形状になっているかということも確認をしております。また、トンネル外ということであれば、なかなか線路内に入るといっても、難しい場合もあるかと思えます。そういう意味でいうと、トンネル外であれば、煙ということを考えれば、トンネルの中に比べて安全かなという部分もありますけれども、いづれにいたしましても、トキめき鉄道と、それぞれの現場での確認を、事前に要するということがあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

こういう話をやりとりしていると、改めて、先ほどの3つの課題もありましたけれども、情報の共有等において、これだけの長いトンネルがあると、やはり携帯等の使用というものも、これから検討すべきじゃないかなと。そのための設備というものも、検討すべきじゃないかなということを痛切に、今、感じているんですけどもいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

通報手段、連絡手段というものは、複数以上あることが望ましいことでありますので、そのような対応ができれば、なお、よろしいかなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今回、訓練があったわけなんですけれども、開業して何カ月かたって、これまでにトラブルというものはあったものでしょうか、いかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

今ほど、議員言われているような、例えば列車の火災事故とか、そういうもののトラブルというものは、発生してございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

日本海ひすいラインのほうでは、そういったトラブルは、なかったというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

バスの利用促進について伺います。

まず、路線バスへの市の負担、年間、幾らぐらい今、されているか。

それから乗車数の実態、およそ1台に何人ぐらい乗っておられるか、乗車率というんでしょうかね、把握されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

市の負担ですけれども、生活交通確保対策運行費補助金ということで、年間1億2,500万ばかり支出いたしております。

また、ほかにコミュニティバス等の運行費補助金ということで、1,038万7,000円ということで、昨年度は支出しておりました。

あと、平均の乗車密度ということになりますけれども、1系統当たり大体、2人から3人の間ということになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

1回目の市長答弁で、一部、客貨混載をされているというんですけど、私が言いたいのは、今回ののは、ちょっと違うんでありまして、今回、提案している「貨客混載バス」、これは、高齢化が進む中山間地でバス路線を維持する狙いで、乗客の少ない日中に、乗客と一緒に有償で、荷物を運搬

するということでもあります。

11月18日に、信濃毎日新聞の1面トップにあったものなんですけれども、飯綱町が、長野県内で初めて貨客混載バス導入を検討していると、1面に大きく掲載されている、このとおりであります。

詳しい内容は、時間があれですので記事に譲りますけれども、廃止する方針を示している生活路線を維持する狙いとして、町では公共交通の維持や生活の利便性を高めることを目的、ヤマト運輸と提携する協議をしてるんですけれども、効率のよい運行や、二酸化炭素削減などが期待できるとしております。飯綱町と宅配便大手のヤマト運輸、それから長電バスが協議していると、内容が載っています。

地域の足の維持というのは、長野県内に共通する課題ということで、長野県交通政策課は「地域の実情に合わせた交通手段を守る選択肢の1つになり得る」と書いてあります。

ヤマト運輸がかかわる貨客混載は、全国においては2カ所、ことし6月に岩手県北バス、10月に宮崎交通で始まってあって、ともに高齢化の進む中山間地でバス路線を維持する狙いで、バス会社には荷物の運送料が入り、ヤマト運輸は荷物が少ない時間帯に車を使わず、経費を節減できるといふ利点があると。

そうということで、紹介された飯綱町では、人口減少対策の地方版総合戦略にも盛り込んで、今、協議を進めているというふうに載っております。

これも地方創生の戦略に、十分なり得ることじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

基本的に、バス事業者については、バス停からバス停まで荷物を運ぶと。その後、宅配業者が集荷なり、配達を行うというような事業だというふうに認識はしております。

糸魚川でやってるのは、バス停からバス停まで、糸魚川バスが荷物を運んでおるといふ事例があるということで、一部実施というふうに表現させていただきました。これについてはやはり、確かに赤字路線解消ということでも、荷物を運んだりするのも大事だということに思っております。やはり問題は、宅配業者とそれからバス事業者が、お互いメリットが出るような形で考えていって、実施できればいいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ぜひ、実施の方向で検討していただけたらと思います。

じゃあ次に、2番目の農業政策について伺います。

農業政策でありますけれども、まずTPP、大筋合意によって、先ほどの答弁にありましたように、非常に大きな影響を受けるというのをいただきましたけれども、市長は、まず、このTPPの大筋合意について、いろいろと賛否、あちこちにありますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

政府におきましては、ＴＰＰの大筋合意は、主要品目を中心に長期の関税撤廃期間や、セーフガードの措置が設けられたことは、評価できるというふうに考えておりますけれども、まだまだ、今後に不安を残す内容でないかなというふうに受けとめております。

なお、１１月２５日には、ＴＰＰの総合対策本部が、関連の政策大綱を発表しておりますので、この具体を、注視してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

先日、新潟県の影響を試算した結果が公表されて、最悪９２億円、６％の減という、大変厳しい数字があらわれましたけれども、これを糸魚川に当てはめた場合の試算をされておられたら、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員言われますように、県全体で最悪を想定した場合に、９２億円の減で約６％という報道がなされておりまして、このシナリオを当市に当てはめた場合に、約９，０００万円前後ではないかなというふうに試算をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

同じく、またこのシナリオを当てはめての攻めの農業競争力の強化等を、国が本当にやった場合のプラスの試算の中で、米の輸出について書いてありますけれども、糸魚川市内での米の輸出についての、今の状況をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

実績では２件、年間１トンが、輸出されておる実情であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

+

○ 7 番（田中立一君）

今後の取り組み、展望等はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

先ほど申し上げましたように、政府が出しましたＴＰＰの総合対策要綱が、具体化されてくるのを注視しながら、また、農家の皆さんと話し合いをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

次に、政府・与党が示した、耕作放棄地の固定資産税の 1.8 倍への強化ですけれども、非常にこのことについて、中山間地の当地域、いろんなところで話を聞いておって、不満や不安というものは広がっています。

これについて、4 日の新潟日報では、泉田知事が、この耕作放棄地の固定資産税引き上げについて、負担を招くだけだと批判されている記事が掲載されてました。

中山間地などでは、将来の値上がりを期待して、農地を持っているわけではない。どうしても耕作できないという状況があり、課税強化で集積が進むとは考えていないと紹介されていますけど、私もそのとおりだと思いますけども、このことについて、市長はどのように考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり今、一番、放棄地がどうあるべきかというときに、それが集積できないというのも、大きな課題であるわけであります。それを、今、解決する 1 つの方法として、出されたものと捉えてるわけでありまして、必ずしもだめということではなくて、また逆に、負担増になることもやはり、大きな懸念することでもあるわけであります。

しかし、どこかで何かを突破しなければいけないという状況は、今、生まれてる状況でありますので、それを解決する方法、ほかにいい解決する方法があれば、そっちのほうがいいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

次に、ことしの糸魚川市の農業の現状についてでありますけれども、自然災害による一等米比率が、台風による影響を受けてということで、その部分は低かったと。影響を受けてないところは高

かったと。

台風の被害で、同じく、一等米比率の低かった地域では、生産調整配分の懸念から、一律配分への見直しを求めて、県のほうへ出しておりますけれども、糸魚川市では取り組みはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

台風の影響は、昨年に引き続いて２カ年、特に、今井地区周辺は非常に、２カ年続いて被害が出ているわけであります。

従来の、生産調整の配分の基準といいますのは、過去の販売実績を考慮して、改定されてきたわけでありまして、今年度から、一律配分になったわけでありまして。この一律の増減率を採用したことによって、ブランド米の産地からは、不満が出ているところであります。

これまでも糸魚川市は、生産調整を１００％達成してきておりますので、未達成地域との格差を求めてきておりましたけれども、配慮がされなかったことについては、残念に感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

それからもう１点、非常に「新之助」、新しい品種、競争力を強化するための切り札のように出て、非常に話題になっておりますけれども、これは来年試験で、次年度以降に本格的になっていくわけですが、糸魚川の現在の取り組み状況はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

新しい品種の「新之助」につきましては、先般、ＪＡが行われました、糸魚川米ブランド大会におきましても、皆さんに試食をいただいたところでありますし、私も試食をさせていただきました。大粒であり、甘さもあり、粘りもありというふうな、評判どおりのお米だなというふうに感じております。

それで、県では、このブランドの維持に配慮しながら、作付の面積を拡大するというふうにお聞きしておりますけれども、来年度におきましては、当管内では２から３ヘクタールぐらいの作付が、割り当てられるんじゃないかなというふうに、想定しております。

ブランド維持の観点から、栽培管理の指定が厳しいものと考えております。ＪＡひすいを中心としながら、また振興局と連携をしながら、作付の検討を行いながら、当市における栽培管理の適正化を、試行していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

もう 1 点、最近示されたので、ＪＡ米全てに、食味を基準にする区分集荷の方針が、今回、出されましたけれども、管内での現在の区分集荷の取り組み状況と、この対応はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○ 商工農林水産課長（斉藤 孝君）

ＪＡひすいでは、集荷時に食味分析を既に行って、区分集荷を行っているというふうにお聞きしておりますので、今後また、その情報収集をしてみたいというふうを考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

ＴＰＰ初め、非常に農業を取り巻く環境、変化が目まぐるしく、また厳しさを増しているように見受けられます。

そういうことで、農業支援センターのほうも、また大変でしょうけれども、今後、引き続き農業政策のほうをよろしくお願いして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○ 議長（倉又 稔君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔 1 7 番 五十嵐健一郎君登壇〕

○ 1 7 番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、教育環境と福祉の充実について。

新潟県教育委員会は、7月の、糸魚川白嶺高校 1 学級減に続き、12月1日に発表した、2018年から27年度の県立高校の再編計画「将来構想（仮称）」の素案では、少子化に合わせて、全県で14校以上、減らす方針を示した。

1 学年 3 学級以下の学校で統廃合を検討するとして、22校が対象となり、上越エリアでは6校、しかも糸魚川市内では、糸魚川白嶺、さらに海洋高校が検討対象となりました。また、この説明会を13日、日曜日、14時から糸魚川市民会館で開くとともに、12月28日、月曜日までに意見を募集すると、矢継ぎ早に突然、唐突に発表され、糸魚川市民は、あまりピンときてない人が多く、糸魚川が、消滅することをしっかりと情報発信し、特色ある高校の魅力化を図る必要があることを、市民全体の皆さんに強く広く、わかってもらうよう努力いただくよう、以下項目により、具体的に

質問します。

(1) 「早寝早起きおいしい朝ごはんフォーラム」開催を通した10年間の課題分析及び今後の取り組むべき行動について。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果を受けての具体的な取り組みについて。

(3) 市民総ぐるみのひとみかがやく0歳から18歳までのひとづくり。

今年度までの点検・評価。

検証結果を踏まえた施策の改善・見直し。

(4) 中長期を見据えた「県立高校の将来構想（仮称）」の素案公表に対する糸魚川市の対応策及び魅力化について。

(5) 芸術文化、スポーツライフの支援について。

(6) 大学等連携集落活性化実践事業及び移住体験事業について。

(7) 認知症の理解と支える体制づくり及び糸魚川版CCRC構想の調査検討について。

(8) 「ささえあいプラン」における就労支援・雇用促進及び日常生活支援の充実について。

以上で、1回目とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目から5点目までの質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので
+
よろしく願いいたします。

6点目につきましては、今年度は早稲田大学、横浜国立大学に活用いただいております、今後、大学・対象集落とともに拡大してまいりたいと考えております。

移住体験事業につきましては、糸魚川暮らし体験とインターンシップ事業に取り組んでおり、今後、充実してまいりたいと考えております。

7点目につきましては、認知症サポーター養成講座を実施し、支援体制の強化を図るとともに、認知症カフェを通じて、認知症に対する正しい知識の普及啓発を行ってまいります。

また、CCRCにつきましては、総合戦略の中で調査を進めてまいります。

8点目につきましては、就労支援や雇用促進は、関係機関等との連携・協力により、障害のある方の自立や社会参加を支援しております。

日常生活支援は、相談員が個々の状況に応じた支援を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、この 10 年間で「早寝早起きおいしい朝ごはん」への意識が向上し、特に、9 歳までの生活リズムは改善傾向にありますが、10 歳以上は、メディアに取り囲まれた生活になりやすい家庭が多く、課題と捉えております。

今後は、保護者を含め、9 歳までに生活リズムの定着を重点的にを行い、土台をつくった上で、豊かな体験をしてこそ子供は育つという意識を、市民ぐるみでつくり上げる取り組みが必要だと考えております。

2 点目につきましては、授業改善と家庭学習の習慣化が、課題であると考えております。

このため、各校に対し、テスト結果を詳細に分析して、自校の正答率の低い問題への取り組み、また、文部科学省による、特に正答率の低い問題をピックアップした、授業アイデア例の活用を指導しております。

教育委員会では、各校の授業改善の取り組みを、今後、確認・検証してまいります。

また、家庭学習の習慣化は、発達段階に応じた、自発的に家庭での学習の取り組みが図られるよう、啓発を進めるとともに、学ぶ意味を自覚できるキャリア教育への取り組みを、一層進めてまいります。

3 点目につきましては、これまでの成果は 4 点あり、1 つ目は幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携が、着実に進んでいること。2 つ目は、「早寝早起きおいしい朝ごはん運動」が定着してきていること。3 つ目は、学校生活を楽しく送っている子供が多いこと。4 つ目は、地域の行事に参加する子供の割合が高いことであります。

問題は 3 点あり、1 つ目は、学力の向上。2 つ目は、社会性や道徳性の育成。3 つ目は、家庭・地域とのさらなる連携であります。

このことを踏まえ、家庭では生活リズムの定着、愛着形成の育成のための支援、自発的な学習の定着、また、学校・家庭・地域が連携して取り組みを進めていくことが重要であり、子ども一貫教育基本計画の見直しを進めております。

4 点目の、県立高校の将来構想につきましては、12 月 1 日に素案が公表されたところであり、今後、内容を検証してまいります。既に、市内の高校の魅力づくりに対する支援を行ってきており、今後も 3 校からの要望をお聞きする中で、市として可能な支援を行ってまいります。

5 点目につきましては、芸術文化では児童生徒図工美術作品展の開催や、市民会館鑑賞推進事業などを通して、また、スポーツでは各種スポーツ教室や大会の開催、ジュニア団体の育成等を通して、今後も支援してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17 番（五十嵐健一郎君）

順番、どこへ行くかわかりませんので、よろしくお願いします。

7 番目の、認知症の理解と支える体制づくりから行かせてもらいますが、これも、一般質問でいろいろ取り上げてもらってるんですが、なかなか理解できなくて悩んでおります。

それで認知症の、認知症と認知症状を有する障害高齢者の人数を教えてくださいたいのと、若年認

知症人数、糸魚川市内で、サポーターはどれだけ、今現在おるのか、キャラバン・メイトは何人おるのかということを教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

高齢者の中で、認知症、認知症の症状を有する人数でございますが、今、ここに手元でございますので、後ほど報告させていただきます。

認知症サポーター養成講座の受講者でございますが、今現在、2,911名でございます。また、キャラバン・メイトの累計人数でございますが、平成26年度末で112人となっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

9月の一般質問でもありましたが、初期の集中支援チームを設置すると、それが、平成30年度に設置目標という。医師会との協議、この辺はどうなっておるのか、教えていただきたいと思います。

医者と保健師、社会福祉士と専門職チームでやると言っておるんですが、これを早めていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

認知症初期集中支援チームでございますが、計画の中では、平成30年度に実施という運びになっております。

今現在、認知症のサポーター医につきましては、1名の先生しかございません。

それと、専門職であります保健師、また社会福祉士につきましても、なかなか人材を育成する、今、その段階でございます。

また、認知症の正しい理解というところで、地域包括支援センターが中心になりまして、いろんな講座を開いておりますし、認知症カフェの中でも、相談をいただいているところでございます。今後は、認知症の正しい理解というところで取り組みを始めているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

平成30年度には取り組むということなのですが、今、介護・介助が必要になった主な原因が、認知症がトップで、トップは高齢による衰弱ですが、認知症が29%に達しておる。脳卒中が18.4%で認知症のほうが原因が高い。平成20年度で2,000人ぐらいが、認知症・認知症状で、2,000人ぐらいが市内におると思うんです。若年の認知症もかなりおると思う、後で数字いただけると思うんですが、これは、早くやってもらわないとやっぱり、今、徘徊やいろいろな形で面倒見切れない人がいっぱいおると思うんで。

愛知県の高浜市、これがやっぱり平成26年度から、国立の長寿医療研究センターと共同事業で行われている認知症予防検診、本当の健康保険の検診とともにやってるんですね。こういうのを含めて、認知症予防検診を集团的に実施、これもやっぱり必要になってくると思うんで、その辺は早目に取り組んでいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

議員のご指摘のとおり、認知症につきましては、早期発見が一番重要だというふうに思っております。

しかしながら現在、いろいろな講座を開かせていただきましても、なかなか集まらないというような現状でございます。また、認知症ではないかというような場合においても、家族の方が認知症ではないという、理解不足というのも多々ある状況でございます。

先ほども申し上げましたとおり、認知症に関する、正しい知識を普及啓発するというのが、第一であろうというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

佐渡で、認知症モデルで発信して、泉田知事もやってるタウンミーティングの中で、やっておるんですが、これ本当に全身運動・音楽・リズムで認知症予防に「エクサドン」といって、太鼓もりをしながら、そういう運動も含めてやっておるんです。

こういうのも含めて、やっぱりやる必要があると思うんですが、この辺もやっぱり、健康いといがわ21も含めて、そういう形でやる必要があると思うんですが、予防のほうですね、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

私も各地区で、地区運動教室等をやっておりますが、その中での運動の一部のメニューといたしまして、そういった認知症予防、また認知症、そういったものの、運動しながら頭の中で計算をすとか、そういったメニューを取り入れながら、行わせていただいております。

現実的に、そういった部分で行っておりますのが、先ほど地区運動教室の中でも、そういった軽度の認知症の疑いがあるというようなテストも若干あるんですけども、そういった部分もテストを取り入れながら、約2割から3割程度、そういった疑いの方がいらっしゃるという部分もございまして、今のような取り組みをさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

すみません、先ほど認知症の人数を問われておりましたけれども、認知症の数字につきましては、ことしの4月1日現在、2,207人となっております。そのうち、64歳以下の若年の方は、30人でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

4月1日で人数が2,207人、平成20年度2,000人程度であったんで、ふえてます。若年認知症も、64歳以下で30人ということで、糸魚川市内、まだ多いかもわかりませんが、隠れ認知症もあると思うんで、その辺も含めれば、全国で認知症が465万人、予備軍が400万人になっていっておるんですよね。やっぱり先進地も含めてやっていただきたい。

それで、今、専門家、専門医が要らないそうなんです。タッチパネル式認知症治療評価法といって、タッチパネルですぐわかるそうです。今、山本課長言われたとおり、検診のときにそれを利用してやって、判定してもらえる評価法がかなり先進地でやられておるそうなんです。ぜひ、それで高い検出率があるそうなんです。専門家は、後でそれを見て判定してもらえばいいんです。それでわかるそうなんです。タッチパネル式、スクリーニングテスト。

これは絶対、ぜひ、糸魚川市でも取り入れていただきたいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

タッチパネルにつきましては、認知症カフェを開設する段階で、道具として買わせていただいております。いろいろな介護予防の事業の中で、その調査を希望される方には、やらせていただい

るところでございます。また、認知症の検査をどうぞというお話の中ではなかなか、私はそんなふうな検査をして、結果が悪かったら困るわというようなお話もあります。

そんな中で、認知症につきましては、認知症だという判断をする前に、何となく変だなといったときに、周りの方がいろんな見守りをする中で、地域の中で生活できる方もたくさんいらっしゃいます。認知症と断定する前のいろんな支援を、行政のほうで進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、やっぱり認知症も予防だと思うんですが、運動も含めてすばらしいことをやっておる高浜市では、リスク検診とか、歩く速さのリズムとか、一番早く見つけるのが必要なんで予防活動、歩く活動量、活動をはかる歩数、そういうのも含めてやっていただいております。歩くコース、市内でいっぱいありますが、どんどんコースをつくっていただきたいと、こう思っております。

それで、認知症予防専門士制度とあるんですが、糸魚川市では誰か取ってるのか、医師のみなんでしょうか。認知症予防専門士制度というのがあるそうなんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

専門医につきましては、糸魚川市で1名、サポート医につきましては、今現在1名のお医者さんでございます。

専門士ということにつきましては、初めてお聞きいたしましたので、調べさせていただきます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、そういう専門士も含めて何人か、専門士の研修とか制度に基づいて、やっていただきたいのと、今、いろいろ高校生サポーターだとか、いろいろな形でリアルタスク能力、そういうのも含めて、料理とかステップ、踊りみたいなのも含めて、そういう運動教室も行ってますので、ぜひ、取り入れてやっていただきたいと思っております。

次に入らせていただきますが、CCRC構想、これも先ほど総合戦略でやっていただけると、調査・研究、何もやってないんですか。大分、先進地は進んでおりますが、糸魚川では取り組みをやるのか言っておって、検討だけで進んでないんですか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

ＣＣＲＣにつきましては、やはり受け入れるための地域コミュニティーなどの、元気なうちは継続的なケアが必要になります。これは、受け入れる側もそうですし、入ってくる方もやはり、それなりに地域貢献等をしていただくという形になります。

今度は、それから年をとられて、医療なり介護が必要になった場合も、これも継続的なケアが必要になってくるということから、先進地、今は南魚沼で２００組４００人を目標に、受け入れるということでやっておりますが、その辺の状況も見つ中で、やはりこれについても検討していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

９月のときに、私も一般質問させていただいたときに、藤田企画財政課長は糸魚川市版ＣＣＲＣ構想の調査検討を、「制度が固まってから取り組むのでは、やはり遅い部分もあるので、首都圏の都市との交流も含めて、早い段階から調査研究のほうには取り組む」と言っておるんですが、なかなか進まないんですが、本当に先進地では、先ほどおっしゃられました南魚沼、長崎県、茨城県笠間市、山梨県都留市、これ見てみるとやっぱり進んでますよね。その辺も含めて、お試し移住、体験教室、その辺も含めて早くやることはできないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

ＣＣＲＣというような大規模なものじゃなくても、やはり短期移住型の体験事業だとかそういうものについては、やはり来年度、今年度もそうですけども行っておりますし、その辺で来ていただいて、糸魚川を見ていただいて地域と交流していただいて、自分がそこに入っていけるかどうかというようなところも見きわめつ中で、やはり移住なりしていただくというのが、基本かなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

地方総合戦略の中で、全国で今、採用されたのは幾つぐらいですかね。３０近い、先ほど先行型も含めて、総合戦略で３月までにどう取り組むかと、全国でもはや３０カ所ぐらいやっておりますよ。糸魚川市も挙げておるけど、採用されませんでしたけど、ぜひ、その辺も含めていつやるか、予算化も含めて、まだ予算中なんだろうけど、それやっぱり図る必要があると思うんですわ。このＣＣＲＣ構想の、推進協議会みたいなものの設置を考えてないんですか。まず、そこから始めないと。それはチーム糸魚川でやるべきだと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

総合戦略の推進について、庁内と庁外ということで考えております。

庁内については、庁内の推進委員会を中心として、進めたいと思ってますけれども、庁外の部分については、当然、庁内の推進組織との連携、そういったものも必要となりますし、庁外の組織としては、チーム系魚川を中心とした、新たな検証も兼ねた組織をつくりたいと思ってます。ただ、組織ありきではなくて、やはり総合戦略をつくる際にも、いろんな団体の方と意見交換しております。そういう中では、やはり市の考え方、それから市民の皆さんや団体の皆さん、それぞれの考え方を確認する中で、よりよい方向に推進していくことが必要と思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

南魚沼もそうですが、山梨県都留市もＣＣＲＣ推進班、4つのプロジェクト、移住環境整備プロジェクト、大学連携プロジェクト、地域連携生涯学習プロジェクト、お試し移住もありますし、4つ目が健康長寿支援プロジェクト。やっぱり、それはチーム系魚川でＣＣＲＣ1つですが、何か固まって、ただ団体で話し合ってるんでなく、どのポイントでやっていくかというのは、総合戦略で3つぐらい挙げて、何かやるということになれば、何のプロジェクトをやるか、私は挙げてやるべきだと思ってます。このＣＣＲＣも系魚川版が、ぜひ必要だと思うんですが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

総合戦略の人口ビジョンの中でも、お示しいたしておりますけれども、系魚川市の人口構成の中では、少子化・高齢化が非常に進んでいるわけでございます。重点的には、若者の移住・定住、これを中心に進めていきたいというのが、総合戦略の1つの柱でございます。

そういう中において、ＣＣＲＣの構想についても、議員おっしゃられるように、他市の事例もございます。当市でもできるのではないかとこの部分もでございます。

そういう部分については、調査・検討をしていきたいということで、現時点では、調査を進めているというのは現状でございまして、もう少し調査を進める中で、今後の対応を進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

東京都杉並区と南伊豆町、これも連携して「アクティブシニアお試し移住プロジェクト」と、そういうのをやってるんですね。住所地特例もやって、そういうのも含めれば、やっぱり雇用を生み出すためにも、若者が定住・移住もしていただくためにも、やっぱり、もう少しとか言ってる場合でない、スピード感を持ってやっていただきたいと思うのですが、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

移住・定住の中で、今、取り組んでおるわけでありまして。また今、議員ご指摘のように、やはり全国からというようなことではなくて、やっぱり相手が見えるところがやはり一番、私はベストだろうなと思っておるわけでありまして、その辺を今、進めさせていただいておるわけでありまして、まだ具体的にお示しする段階ではなくて、そういった、どこと連携をとっていけばいいのか、首都圏の中に声をかければいいのかというようなところであるわけでありまして、実際、アクションしておるわけでありまして。

そういう中で、総合戦略の中で位置づけをしていきたいということでありまして、そんなに時間は置かないで、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

時間を置かないでやっていただけるということでありまして、1億総活躍緊急対策でも、介護サービス利用50万人分、特養などをふやすということも、国の方針、出ております。

それと、きのうNHKであったんですが、無認可介護施設、これも糸魚川にはないと思うんですが、そういうのも含めて安い賃金で、ケアハウスじゃないですけど、いろいろな形で老人ホームみたいに高くない、そういうのも含めて、今、サ高住でないですけど、サービス付き高齢者住宅もありますんで、いろいろな形で早い段階で、私たちにお示しをいただきたいと思っておりますし、お願いしたいと思います。

次に移らせていただきます。

教育関係で11月28日、陰山先生の講演をいただいて、すばらしいなと。これを、糸魚川市に取り込んでいただければ、すごいいいなと思ったんですが、その辺、教育委員会も市長もお聞きになって、いかがだったでしょうか。感想と、今後の取り組みを、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

ご質問にお答えいたします。

私も、教育フォーラムに参加させていただき、陰山先生のお話を、興味深く聞かせていただきました。

陰山先生の取り組み、百ます計算、そして「早寝早起き朝ごはん」の取り組みについては、以前より承知していたわけですが、「早寝早起き朝ごはん運動」につきましては当市でも、ずっと取り組んでおり、成果は上がっているというふうに思っています。

百ます計算につきましても、取り組んでいる学級は多くありますが、陰山先生の実際のすばらしいところは、それを継続しているところだというふうに考えています。百ます計算に限らず、毎日、確実に何かを、学力向上のためにこつこつと積み重ねてやっていくということ、そしてその成長を、子供たちが実感できるという取り組みが、一番効果的だなというふうに思っております。

あのフォーラムに参加していた教職員も多くおりますので、そういった小さなことの積み重ね、努力の積み重ねについても、また、校長会を通して、指導していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、これをやっていただければ、学力も向上するんじゃないかなと思うんですが、今回の学力テストで下降きみと。

やっぱり継続だと思うんですね。先ほど課題にもありましたように、早寝早起きの状況分析を中学生ぐらいまで、睡眠時間、睡眠が一番必要だと。テレビとかパソコン、スマホも含めて1時間程度にすると。それと、読書は知能を高めるんで、読書の習慣化もありましたし、正しい生活習慣の環境。それと、やっぱり脳を早く動かす練習。頭を動かす、高齢者も含めてですが、子供から高齢者まで一緒なんですけど、寝るシャワー、寝るって言ってましたね。あまり怒らんで、怒るんでなく叱るぐらいで、寝るシャワー、ざーっといっぱい寝ていただきたい。

それと、保坂議員もありました、「ビリギャル」。全然、勉強しておらんかったんですけど、高校生で小学生レベルだったのが、慶応大学に受かったということも、話でありました。

ぜひ、繰り返しの学習が有効性と、言葉の力を伸ばす、これはやっぱり必要だと思うんで、漢字も必要だと思うんですが、その辺はいかがですか、市長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も、講演を聞かせていただきまして、非常にシンプルであるわけではありますが、しかし、陰山先生の話の聞いてると、非常に前向きに取り組んでいけそうかなというような気持ちになってくる、これが大事だなと思っております。

そのようなことで、あそこにお聞きになった方々だけではもったいないなと、もっともっと大勢の人に聞かせてあげたいなという形の中で、糸魚川市として、陰山先生ともっともっと、おいでい

ただ機会をつくって、家庭の皆様方や、また保護者の皆様方、そして学校の先生、市民の皆さん、いろんな場をつくって、全体で取り組む方向に行かないと、一部の人だけでやってしまうと、ただ単に、それは陰山先生の考え方というだけでこうなっていくので、やはりご本人からお聞きするのが一番いいのかなと思っておるわけでありまして、そういったこと等、早急に取り組める方法はないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、年に何回か呼ばれて、定着させていただきたいと思います。やっぱり、素晴らしい先生は、素晴らしいだけのものを持っていますね。

それでもう1つ、6月も一般質問させてもらったんですが、福井県の学力・体力トップクラスの秘密ということで、課長もあの本を持っておるということで、日本一の学力・体力に結びつけるには、福井県、秋田県を見習って、糸魚川市も日本一を目指してやっていただきたいと思います。この本も読んで、どうやれば糸魚川市がよくなるか、どうお考えだったでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

私も、これ読ませていただきました。そして7月の末に、市長と一緒に福井の県教育委員会に視察にも行かせていただきました。

その際、福井県の県の教育委員会の方からお話を聞きまして、一番感じたことは、これにもありましたんですが、当たり前のことを徹底してやるということです。県の教育委員会の方がおっしゃってたのは、宿題は出したからには必ず生徒にやらせる、やらせたからには確実に点検をします。こういったことの積み重ねが、学力向上につながっているんだというお話でした。

糸魚川市の実態を見ますと、中学生では家庭学習の時間が少ない、また、予習・復習というのが、全国よりも少ないということが挙げられます。こういった、当たり前のことを徹底してやるということについて、非常に学びました。

市内の学校でも、そういったことをしっかりやって、成果を上げている学校もございますので、その点について、また、他校とも情報交換をして、広げていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

市長も見ていただけたということ、私は見てないんですが、本だけなんで偉そうなことは言えませんが、やっぱり素晴らしいことは取り入れるべきだと思います。

この本の中に、中学校の具体例があるんですが、本当に毎日、宿題を出す。宿題、毎日1時間が

+

ら1時間半。朝の提出物の中に、自主学習ノート、生活ノート、テキスト学習、テスト計画表と4つを、みんな毎日出すんですね、中学生。

やっぱり、これも必要だと思いますよ。毎日毎日、学習、難しいがばっかりやるんじゃない、解けるがでもやるんですよ、やらせるんです。それも必要だと思います。

その中で、福井は鍛える教育文化。褒めるばかりじゃない、優しいばかりじゃない。丁寧な教育で、鍛える教育。どこか海じゃないですけど、遠泳、これも五、六年生も含めて、毎年やらせるんです。その準備に、もう1年生から泳いでる。そういうのも必要だし、山、登山。それと、しゃべって掃除するんじゃなく、無言の清掃、これ毎日。モップとか、こんなんやっておるわけじゃないんですよ。雑巾で、本当に丁寧に、掃除日本一。それもやって、あと、体力で握力が弱いんで、グーパー体操、これも高齢者もいいと思うんで、グーパー体操、毎日。夏休みの補習、これも必要だと思うんですが、この辺を含めて、放課後の補習も含めて、休みも含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

中学生の夏休み中の補習につきましては、各校、工夫をしてやっております。今年度は、教育委員会のほうで補助をしまして、教員のOBの方に何人か入っていただき、そのお手伝いをいただいているところです。小学校でも、各学級担任が工夫をしながら、補習をしたりということは行っていると思います。

鍛えるということにつきましても、福井の教育について、非常に学ぶところが多いというふうに考えています。子供たち、伸びしろがたくさんありますので、鍛えるということが、大変、子供たちを伸ばす意味でも大きなことだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、厳しさの中で優しさ、それも含めて人間性ですよ。生きる力、やっぱりこれが結びついていけば、当たり前前（あたり）のことが当たり前（あたり）にやれると思うんで、ぜひ、その辺も含めてやっていただきたい。

それで、学校が持つケアリング機能と、やっぱり高齢者も含めて、ケアも必要なんですね、子供も。必要だと思うんで、ぜひ、日本一を目指して、この一貫教育、いいものにしていただきたいと、こう思っています。

次、先ほど言いました統廃合の関係で、本当に1学級減、糸魚川白嶺ですね、1学級減るのは平成28年と公表されてるんですが、もう決まったんでしょうか。いつ、それが連絡来てされたのか、その辺、経過も含めてお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

白嶺高校が、平成28年度の募集要項の中で、3学級120人の定員でというのが、10月26日の新潟県教育委員会で、正式決定されたということは、承知しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

決定で、今回12月1日に、平成31年度から34年ぐらいまでに、棚に乗かった、白嶺と海洋。

先ほど、海洋はかなりすばらしい特色・魅力もあるということで、私は大丈夫だと思うんですが、やっぱり糸魚川白嶺、これはやっぱり厳しいと思うんですが、その辺で対応策を含めて、県に対していかがなものなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

県の将来構想の中では、特段、学校名を示して、この学校が検討対象ですよということが示されているわけではございませんが、新聞の中では、あえて今回、県内6つのエリアの中の、5番目が上越市、妙高市、糸魚川市のこのエリアですが、この中で、その3学級以下の検討の対象となる学校は、ここここですよという5校を、あえて学校名を表の中に記載されておりますが、その中に白嶺高校と海洋高校が、名前を連ねておるということでございます。

したがって、ここがすぐに、何年度に統合計画だということではございませんが、やはり特色のある地域密着型の、地域との連携により、特色のある学校づくりをしていけば、例外となることもあるんだというのが、将来構想の中でも述べられておりますので、その点については、この白嶺高校、それから海洋高校について、さらに県外からも生徒を呼べる魅力のある学科づくり・学校づくりというものを、学校と話し合いをしながら進めていく必要があると、そういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

そこで、説明会が13日、日曜日、14時から市民会館、これの周知ですよ。きょう配られた庁内報では、13日の日程には何にも書いてないんですよ。

市長を初め、教育委員会、市の職員はどう考えておるんですか。これに、行くか行かないか。やっぱり、満員御礼ぐらいにして、やっぱり示してもらわないとだめだと思うんですが、その辺の対応はどこになるか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

今回、この情報が入りましてすぐに、県のほうに、この説明会の広報を、どの範囲でやっておられるのかということをお聞きしましたところ、県のホームページと、それから一部、地方紙の新聞報道によってのみ、公開するということでしたので、私どもは、これでは市民のほうに、正確に広く情報が伝わらないだろうということで、市の広報でも、ぜひともお知らせをさせてもらいたいということをお知らせをした上で、市のホームページに、この会場と時間について、お知らせをする対応をとらせていただきました。

ただ、広報についてはもう時間がなく、次の広報紙、これに間に合う広報紙の原稿締め切りが終わっておりまして、間に合いませんでした。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

市民対応で、広報無線もありますし、各小中学校並びに幼稚園・保育園も含めて、そういう保護者対応・地域対応、回覧板はいいけど、すぐ通り過ぎますんで、ぜひ、その辺のそういう保護者の対象ちゃん必要だと思うんですが、その辺考えてないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

学校の保護者へは学校を通じて、周知のものについては、手配をさせていただく予定にしております。それから、広報無線とケーブルテレビについては、今、少し総務課のほうと、協議しておるところですので、市の広報無線の内容にふさわしいかどうかの判断をいただいた上で、対応は可能だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、広報無線並びにCATVも含めて、やっていただきたいと思うんですが、その辺、やっぱり重大ですよ。糸魚川白嶺と海洋が、その検討対象に載ってるというのがあるんで、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

糸魚川に住む子供たちにとって、海洋それから白嶺という学校のことに關しては、非常に重要な問題であると思います。ここには、糸魚川高校も含まれてくるというふうに考えておりますので、3つの高校にとって重要であると。そのために、そこを狙う子供たちがいるわけですから、その子供たちに対する、今後の動きはどうなるのかということは、保護者に知っておいていただく必要があるだろうと。そういうことで、県教委からの文書を配布していただいているわけですし、できるだけ多くの人たちに、この会が開かれるということを、できるだけ早い時期に知らせなければいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、お願いしたいと思いますし、1学級減のときに、署名活動もしていただいた方々、熱心な方々もいらっしゃいますし、いろいろな方にやっていただきたい。

それと、最初に1回目の質問にやらせてもらった、28日月曜日までに、要望とか意見をまとめて、28日までなんですよね、提出締め切り。これはやっぱり、説明会を13日にやって、28日までに提出してくれと。

私は、やっぱり市としての考え方・要望も含めて、提案・意見もしていただきたいのですが、28日までに。議会の総務文教常任委員会もありますし、その辺も含めて出していただきたいと思うんですが、市としての考え方、教育委員会も含めてそういう意見等まとめて、教育委員会もありますし、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

今のお話は、県として、この素案に対する県民の意見を広く、パブリックコメントという形で募集をしているという内容でございますので、これに対して、市が公式に考え方を述べるかどうかというのは、また別の次元のお話だと思いますので、市としての見解、あるいは市の教育委員会としての意見・要望は、直接、県教委へ行って、お会いしてお伝えするという方法がありますので、ぜひとも市民の皆さんから、このパブリックコメントに対する意見・提言というものを、応募していただきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

その考え方はいいと思うんですが、ぜひ、直接、これに対しての、先ほど竹之内次長が言われたように、直接、県に行って折衝していただきたいと思うんです。それはいつなんですか。早くお願いしたいと思うんですが、日程、決まってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

今のところ、県の説明会の内容を詳細に聞いた上でないと、各学校のPTA、あるいは後援会の皆さんも、どういった要望をしたい、すればいいか、どういった学校づくりができるかという点で、意見を1つにまとめるということが、まだ、できてないと思いますので、そこら辺の意見交換をした上で、県に要望する、あるいは市の考え方を述べるという点で、意見がまとまり次第、県のほうに、また、そういったものをお伝えする機会が、必要になるんじゃないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

早くお願いしますよ。ここで言うておるのが、平成31年度から34年度まで、普通科系の高校と総合学科は、高校を統合すると言うて、平成31年から34年ですけど、最短で平成31年、新しい1年生が入るときには平成29年ですよ。募集停止にされる可能性があるんですよ、平成29年、再来年ですか、もう1年もないんですよ。可能性は大なんですよ。小学校6年生ぐらいにも対象になってくるんですよ。それが一番怖いんです。

だから、急いでやらないとだめなんですよ。その辺の考え方、市長がこの前、9月の議会で2年前から要望してるというのに、またこんなことで、また急に長期計画、中長期計画出してきて、全県の対象でしょうけど、それはおかしいと思うんですよ。

その辺、やっぱり意見まとめて、今、総合教育会議ですか、それも立ち上げて議論しておるし、教育委員会だけではなく市長部局も入ってやっておるというのに、それまとめてばんと出してくださいよ、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりこれは、高校がしっかり、自分たちの方向性をどのようにしていくかという、1つのまとめ方もあろうかと思うわけであります。市だけで、残せという形の中でいって、じゃあ、何ができるといったときに、学校とずれてたら大変なことになるわけであります

そういう中で、今、海洋高校は、考え方をしっかりまとめていただいておりますので、我々はそれに対して、地域はどのような考え方で行くかというのを、明確に出させるわけであります。

ですから私は、もう1つはやはり、この白嶺高校は何を目指すか、何を地元の生徒と手をつないでいくかというものを、やはりその辺が、早急にまとめていくことが大切かな。

そういう中で、例えば我々もご意見を出せということになれば、出させていただくことはあろう

かと思うわけではありますが、やはり学校が、私は大切だと思っております。

そのようなことで、このような具体的なことが起きるということは、私は思ってなかったわけですが、しかし少子化という流れの中では、いつか来るぞというようなことがあるので、2年前に、早急にそういったことを事前にお考えくださいと、取り組みませんかというような形で、ご提案をさせていただいたわけでありまして。

今、その辺を一緒にさせていただきたいと思っておりますが、まだ、具体的には何も動きがないみたいでございますので、それを早急に、まとめていくことが大切かと思っております。それが、早道だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

長野県の白馬高校ですか、これも魅力化で取り組んで、皆さんご存じだと思うんですが、首長、村長も委員に入って、学校運営委員会を立ち上げて参画して、国際観光科を新設して全国から募集。公営塾の運営とか、教育寮の整備・運営とか、これを2村で、白馬村と小谷村が800万円負担して、寮の運営とか塾を運営・整備の中に入ってる。それと、生きた英語も使って、英検や漢検など資格取得の支援とか、タブレットを用いた学習サービス導入、映像教材や電子版の問題集など、留学支援とかもいっぱいありますが、ぜひ、もう入ってくださいよ、市長、教育長含めて。

何で0歳から18歳までの一貫教育の計画を立てておるのに、18歳までどうたってるんでしょう。もう一緒になってやりましょうよと言いましょ。高校を待っておれば、いつになったってわかりませんよ。一緒にやろまいいか、それチーム糸魚川でないんでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

白馬高校を今、例に出してお話しいただきましたが、白馬高校は数年前から、それ動いております。我々はやはり、そういった後発になったという、1つのおくれもあるわけではありますが、我々といたしましても、そういった形で進めていきたいわけではありますが、やはり何度も言いますが、県立高校という、1つちょっと違う部分がございます。一緒になって進めていく、我々地元の子供たちという形の中においては、18歳まで、一生懸命進めていかなくちゃいけないことは当然だと思っておりますが、やはり主体性を大事に捉えていきたいと思っております。官主導という形にはならんようにしていきたいと思うわけではありますが、しかし、そういう時間があまりないことも確かであるわけでありまして、その辺はやはり、声をかけるかかけれんかわかりませんが、どちらからともなくわかりませんが、こちらからも声をかけることもしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、本当にどっちかが早いのか、鶏か卵かでなく、一緒になって、やっぱりやるべきなら、ちゃんとチーム系魚川もつくっておるし、0歳から18歳までの一貫教育計画もつくって、10年も経過して見直しに入ってるんですよ。そこがやっぱり、一緒になってやっていくべきだと思うんです。

先進地で特色化・魅力化、高校の魅力化というのは、本当に町一体になって、島根県海士町ですか、隠岐島前高校とか、いろいろなすばらしいことをやってるんですよ。それとともに、やっぱりやっていくべきだと思うんですが、その辺やっぱり、もう1度、覚悟を聞きたいと思うんですが、市長どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり私は、何度も言うように、系魚川高等学校、白嶺高等学校、海洋高等学校は、大事な本市の教育機関であります。そのようなことから、私もやはり気づいたときには、アクションをさせていただいております。

しかしやはり、高校が、自分たちは何をやるかというのは、やっぱり校長先生が、一番トップにおられるわけでありまして。その指導のもとに、動いていくことが大切だと思っております。そうしないと、生徒の気持ちは、やはり一番、校長先生が把握しておられるわけでありまして。海洋高校見てしかり、やっぱり海洋高校が一番、今、頑張っておるのは、やっぱり先生と生徒が一丸となっておるからであるわけでありまして。

そういうことにならないで、ただ我々、地域の中の1つの教育施設だからといって、行政だけで進めていくというわけにはいかないと思っております。ですから、そういった組織づくりが、まず大事ななと思っておるわけでございますので、その組織づくりに対して、私は提案させていただきますが、やはり学校の情熱がどこまであるかというのは、やっぱり一番大事だと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

11月14日に白嶺の同窓会、200名ぐらい集まったときにも、校長先生も同窓会長も含めて、特色ある魅力をつくる学校にしたいということも言ってますので、こっちからもアクションを起こしてくださいよ。そういうことを言ってるばかりで、行動に移さんから悪いんでしょうけど、やっぱり一緒になってやるべきだと思いますよ。海洋があれだけ頑張ってるのに、それも行政が一緒になってやっておったんですから、同じく系魚川白嶺もやっていただきたいと思うんですが、その辺、教育委員会としてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

そこで今、白嶺高校の具体的な支援であります、ことしの、県へ1学級減の反対の要望をするときに、学校の皆さんとの意見交換もさせていただきまして、具体的に総合学科という非常に、白嶺高校については、今現在、もとの工業・商業のほうが非常にわかりやすかったけれども、総合になってから非常にわかりにくいねというのは、やはりあるということで、その中で、どういう人が集まる特色づくりをしていくかということの話し合いをさせていただきました。

その後の、県の要望の中では、このジオパークというものを生かした観光、あるいは防災教育、そういったものに焦点を当てた学科、魅力づくりはどうだろうかということで、意見の一致を見て、県のほうへもお邪魔をしたということでございます。

また今回も、総合戦略の策定の中で、高校との連携の中で、当市から市の職員が出向いて、3つの学校の、それぞれの考え方もお聞きした中では、白嶺高校とすればやはり、前回、話に出たジオパークについて、室戸高校のほうに視察等にも行ってきたいというふうなお話も聞いておりまして、そこに市として、こういったご支援できるかというのは、また、新年度の予算編成の中で検討していくということを、今、やってるところでございます。

これはまた、新年度予算の中での優先順位づけの中で、つくつかないかとは別でございますが、そういった学校側の要望も聞いた中で、今、対応をしておるところでございます。

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

新潟日報に載っておるのは統廃合、上越エリア6校ですよ。

それで、それはそれとしていいんですわ。組織づくりをやってください、その意気込みはどうですか。高校の魅力化プロジェクトでも、その組織化はどうですか。いつ設置するのも含めて、高校にお願いして巻き込んで、チーム糸魚川としてはどうするんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

先ほどお答えさせていただいたように、こちらからもやはり声かけはしますが、しかし主体は、やはり高校側にあると私は思っております。その辺を、私はご理解いただいて、このことについては取り決めていきたいと思っております。こちらから、やはり行政が内容をお示しするようなわけには行かないと思っていますので、組織化をまずやって、その中で詰めていくのが、そういう形がどうなるかはわかりませんが、組織化について声かけをさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

組織化、ぜひ、お願いしたいと思えますし、この3月で上早川小学校が統合されます。小中で、1つの小中学校が何年も何年も、地域に入ってやっと、地域の方々の納得いくまで話し合いをして、何回も何回も行って地域に入って、ようやく合意形成なんですよ。これも大変なのに、高校がなくなるというのは大変なことだと思うんで、ぜひ、その辺も含めてお願いしたいというように思いますので、一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を3時5分といたします。

午後2時50分 休憩

午後3時05分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

○ 16 番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は介護保険法改定への対応、北陸新幹線の騒音対策、国民健康保険、65歳定年制について、米田市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

1、介護保険法改定への対応等について。

- (1) 介護保険法改定の内容は、多くの高齢者を介護サービスから除外し、利用者に負担増を押し付けるものとなっているが影響はどうか。

要支援1、2の人の訪問介護と通所介護の介護保険給付外しと市町村事業への移行により、どれだけの人が影響を受けるか。

今年4月から、特別養護老人ホームへの入所は原則要介護3以上に限定されたがどのように対応しているか、影響はどうか。

8月から合計所得160万円以上の人の利用料負担が2割に引き上げられたが、該当者数はどれくらいか。高額介護サービス費負担上限の引上げによる影響はどうか。

低所得者の補足給付対象の厳格化による影響はどうか。

多床室の基準費用額引上げにより負担増となった方はどれくらいいるか。

- (2) 介護予防・日常生活支援総合事業（新総合事業）の問題点、課題についてどのように捉えているか。

低廉な単価のサービス普及をどのように捉えているか。

「認定に至らない高齢者の増加」をどのように捉えているか。

自立の促進とは、どのような内容か。

- (3) 介護体制、施策を後退させず、施策を充実させる取り組みが必要ではないか。

慢性的な人手不足と言われている介護事業所に対し、現行予防給付の報酬単価が確保できるようにすべきでないか。

無資格・基準緩和の「訪問型及び通所型サービスA」は導入すべきでないと思うがどうか。

「住民ボランティア」等については、現行相当サービスの「代替」や「移行先の受け皿」としては無理があるのではないか。社会資源として育成する事業に位置付けた方がよいのではないか。住民による「互助サービス」は、補完的・補助的な役割を果たすものとして位置付けるのが実態に合っていると思うがどうか。

要介護認定を省略し申請を抑制することがないようにすべきと思うがどうか。

国に対し総合事業費の上限を撤廃し、必要な費用の保障を求めることが必要ではないか。

- (4) 今後の基盤整備のため、地域医療介護総合確保基金の活用についてどのように考えているか。

- (5) 要介護、要支援認定者に対するアンケートで、介護が必要になった主な原因に、高齢による衰弱、認知症、脳卒中、骨折・転倒、関節の病気等があるが、介護が必要にならないための健康づくり、介護予防についてどのように考えているか、課題は何か。

2、北陸新幹線の騒音対策について。

- (1) 北陸新幹線の騒音被害の状況は把握しているか。

+

- (2) 騒音の解決策について、関係住民の方たちとの話し合いはもったか。
- (3) J R の考える騒音対策と関係住民の要求との関係はどのようになっているか。
- (4) J R との連携はとれているか。
- (5) 今後の対応についてはどのように考えているか。

3、国民健康保険について。

- (1) 当市の国民健康保険における医療費は、高血圧、脳こうそく、虚血性心疾患、糖尿病が県平均を上回っており、県下でも高い状況とのことだが、どのようになっているか。
- (2) 総合的な健康づくりの取り組みで健康寿命を延ばすこと、そのための体制の強化、病気の早期発見・早期治療が必要と思うがどうか。
- (3) 特定健診受診率の引上げが必要と思うが、どのように取り組んでいるか。
- (4) 有業率の高さや趣味、公民館活動等、身体を動かし脳を使うことが健康寿命を延ばすことにつながっていると言われております。関係部署の連携はどうなっているか。
- (5) 人口減少と高齢化が進む中、国保加入者も減少している。それに伴い国保税の負担が重くなっていくことになる。一般会計からの繰り入れを考えるべきではないか。
- (6) 国の負担割合を2分の1に戻さなければ、地域間のアンバランスを是正することはできず、過疎の進む地方ほど、重い負担を背負うことにならざるを得ない。国に対し強力に、国の負担割合を2分の1に戻すことを求める必要があると思うがどうか。

4、65歳定年制について

- (1) 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律」が2013年（平成25年）4月1日から施行された。市職員はどのようになっているか。
- (2) 一定期間、無年金・無収入となる者が生じる可能性があるということだが、どのように考えているか。
- (3) 糸魚川市は、どのような考え方で対応しているか。労働組合との関係ではどうか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番の1点目の1つ目につきましては、総合事業へ移行する人数は150人と見込んでおります。2つ目につきましては、制度改正がありましたが、大きな影響はありません。3つ目につきましては、161人が2割負担となっております。また、高額介護サービス費負担上限の引き上げにより、負担がふえた方がおられますが、サービスの利用状況に大きな変化は見られません。

4つ目につきましては、配偶者の課税状況や、預金などが勘案されたことにより、食費・住居費の補足給付が受けられず、自己負担がふえる場合もあります。

5つ目につきましては、負担がふえた特別養護老人ホームの多床室利用者は22人です。

2点目の1つ目につきましては、サービスの選択肢がふえ、高齢者の社会参加と介護予防、要支

援状況からの自立の促進へつながるものと捉えております。

2つ目につきましては、健康な高齢者がふえることは社会的に望ましいと考えております。

3つ目につきましては、少しでも介護度が改善することを目指して生活することと考えております。

3点目の1つ目につきましては、現行の予防給付の報酬単価を確保する予定であります。

2つ目につきましては、基準緩和の中には、専門性を必要としない家事援助の担い手の確保や、短時間でのデイサービスなども含まれており、ニーズに合った方法で導入していきたいと考えております。

3つ目につきましては、ボランティアによるサービスは、柔軟性と多様性というメリットがあり、十分、受け皿になると考えております。また、高齢者がボランティアになることで、自身の介護予防や生きがいにつながることも期待をいたしております。

4つ目につきましては、申請を希望する方については、受け付けを行ってまいります。

5つ目につきましては、国への要望は考えておりません。

4点目につきましては、市内の施設整備等に活用してまいります。

5点目につきましては、高齢者の介護予防には、若いときから健康に対する意識を高め、よい生活習慣を身につけることが大切であり、生涯を通じての健康づくり支援が重要であると考えております。

2番目の1点目につきましては、地元自治会と連携し状況を把握いたしております。

2点目につきましては、鉄道・運輸機構と連携した地元説明会や自治会役員との話し合いを行っております。

3点目につきましては、騒音の音源対策について、鉄道・運輸機構へ地元の要望を伝えております。

4点目につきましては、鉄道・運輸機構を通じて、JRへ対策の早期実現を要望しております。

5点目につきましては、音源対策と住宅の防音工事の早期実施に向けて進めてまいります。

3番目の1点目につきましては、高齢者比率が高いことから県平均より高くなっておりますが、循環器系、内分泌系の医療費は、入院では減少傾向、外来では横ばい状態となっております。

2点目につきましては、ご質問のとおりであると認識いたしております。

3点目につきましては、個別案内や検診料金の助成を初め、休日や医療機関での検診など、受診しやすい体制づくりに努めてまいります。

4点目につきましては、関係課による庁内委員会を設置し、連携を図ってまいります。

5点目につきましては、国民健康保険事業の保険税については、受益者の負担で行うべきものであり、一般会計からの繰り入れは、できるだけ避けたいと考えております。

6点目につきましては、引き続き、財政基盤の強化を国へ要望してまいります。

4番目の1点目につきましては、法律の規定により、公務員は適用除外となっております。

2点目につきましては、職員の意欲と能力に応じて再任用に努めますが、全職員の再任用を前提としたものではありません。

3点目につきましては、再任用職員数の増加による、新採用職員数などへ影響があることから、職員労働組合との協議を経て、年金の支給開始年齢までの運用といたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

介護サービスからの除外、負担増の影響に関してであります。消費税導入時から社会保障のためと言われ続けておりますけれども、実際にはそのようにはなっていないと思います。

今回は、地域包括ケアでは5つの構成要素、介護・医療・住まい・生活支援・介護予防のうち、生活支援と介護予防の主要な担い手を、公的なものから自助、互助へと置きかえていくものとなっております。

当市は、新総合事業への移行をどのように考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

新総合事業の移行につきましては、糸魚川市といたしまして、まず、地域の支え合い体制や生きがいづくりを生かした地域、また、介護予防と自立支援をポイントとして考えているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

介護予防・日常生活支援総合事業、新総合事業でありますけれども、この問題点、課題の関係であります。

訪問介護、通所介護を介護保険から外すことによって、認定に至らない高齢者をふやすと同時に、要支援1、2の公で支えているものを、自助、互助に置きかえることによって、安上がりなサービスにしていくということと同時に、当市のように、こういうふうなことによって、これらを推進することによって、当市のような人口減少、過疎が進む地域にとっては、介護を支える基盤が崩されていくということにもなりかねないというふうに思います。

このような点も考えながら、取り組んでいただきたいというふうに思いますが、先ほど、地域の支え合いとか、あるいはそれぞれ支援をし合うような形を考えていくということなんですが、今の糸魚川市の状況の中で、果たしてそういうことができるのかどうかというふうな気もするんですけども、いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

総合事業のサービスの中には、訪問型サービス、通所型サービスがございまして、その中で総合事業のほうに移行する場合、今現在、考えておりますのは現在のサービス、訪問介護事業所が提供しているヘルパーさんの事業。また、通所型サービス、現行のサービスでいいますと、予防通所介護、介護保険の事業所でやっております通所のサービスを、まず、現行のサービスを段階的に移行したいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

4月から、介護報酬単価が引き下げられましたけれども、介護事業所が慢性的な人手不足と言われている原因は、どこにあると思われますか。介護事業所の確保は、糸魚川市の介護事業を維持していく上で、かなめとなると思いますけれども、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

介護の事業所にとりまして、スタッフの方が不足しているということは承知しているところでございます。

しかしながら、今現在では基準に合っている職員の体制づくりはできているというふうに考えております。しかしながら、スタッフとして仕事をさせていただくために、今年度から介護の従事者に対する補助金制度も行っておりますし、また、学生さんへの貸与の制度も始めまして、介護の仕事についていただきたいというところで取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

力を入れて取り組んでいるということのようでありますが、いろんなそういうふうな取り組みで、介護事業所が維持されてサービスの低下にならないように、市町村事業への移行に当たっても、介護予防事業者の活用を進める必要があると思いますけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

+

- 福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

今現在も、新総合事業に移行するに当たりまして、各事業所の方と相談をさせていただいております。その中で、どんな方法で進めていけばいいのかというところも協議しているところでございます。介護保険事業所を排除するということは、全く考えておりません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

新保議員。

- 16番（新保峰孝君）

同時に、全国一律の介護報酬から、今度は新総合事業に移行される事業では、市町村が独自に、市町村といたしますか、市が、糸魚川市が独自に設定することになりますが、単価においても現行予防給付の報酬単価を、事業者が確保できるようにする必要があると思いますが、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

- 福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

段階的に現行のサービスを、来年度、移行したいというふうに考えておりますが、その段階では、今の報酬を維持するということで考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

新保議員。

- 16番（新保峰孝君）

これまで、訪問介護と通所介護の介護保険給付を利用していた方たちが、給付を外されて市町村事業移行ということになるわけですが、サービスを低下させないという姿勢が大事だと思います。現行相当サービスを維持する必要があると思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

- 福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

現行サービスの維持をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

新保議員。

○ 16 番（新保峰孝君）

先ほども少し述べましたが、現行相当サービスの代替や、移行先の受け皿としての住民ボランティアや住民による互助サービスは、行政がこうやりますと言ってできるものではないと思います。市民の中でのボランティアの定着度、高齢化が進む中での安定性等考えれば、そう簡単にできるとは思いませんが、住民ボランティアや住民による互助サービスを、どのように捉えていらっしゃると思いますか。事業所と同じような水準でやってもらえると思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

住民ボランティアさんに関しましては、これから養成をする必要があるというふうに考えています。

また、介護保険事業所と同じレベルでというところでは、そういうふうにはならないというふうに思っています。

また、今現在、ヘルパーさんを利用している方が、どんなサービスを要求しているかというところの中では家事援助、特に居室の掃除というところが非常に多くございます。そういう部分では、住民ボランティアさんにやっていただける、そういう事業になるのではないかとというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○ 16 番（新保峰孝君）

介護保険サービスが改定されますと、明らかに要介護という人は要介護認定に回すけれども、それ以外の方は、25項目のチェックリストで間に合わせてもよいということになっております。特に専門職でなくてもよいということになっておりますので、窓口職員によって、大きな差が出る恐れがあります。

介護認定を省略し、申請を抑制することのないようにすることは、介護保険料を払っている市民に対しての礼儀だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

先ほどもお話しさせていただきましたが、総合事業への移行の中でポイントといたしまして、介護予防と自立支援というようなお話をさせていただきました。

その方にとって、地域で、また自宅で自立した生活を送るために、どんな支援が必要なのかというアセスメントを十分にさせていただき予定にしておりますし、今現在、地域包括支援センター、または居宅介護支援事業所と協議を進めているところでございます。

また、利用者の方から、どうしても申請が必要だということであれば、それを拒むものではございません。まず、その方の生活支援、何が必要なのかということ、十分、協議させていただきたいと思っておりますし、アセスメント後も、各事業所で差があるということではいけませんので、そこをチェックする、チェックの場所も位置づけも、市のほうでやる予定にしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

総合事業は、後期高齢者の伸び率以内に抑えることになっておりますけれども、重度化予防をこれ以上に推進するのであれば、国に対して、初期の段階からの取り組みである総合事業費の上限を撤廃して、必要な費用の補償を求めることが必要になってくるのではないかというふうに思うんですが、先ほどはそういうようなことはないというような答弁でありましたけども、やっていくと、そういうのにぶち当たるんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

市の予算も国の予算も限られているわけでございますので、その中で総合事業をどのように推し進めていくかということにつきましては、工夫が必要だろうというふうに思っております。

また、どのように事業予算を抑える、そういうことではなくて、その方にとっての生活支援だということを踏まえながら取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

介護が必要にならないための健康づくり、介護予防についてであります。

高齢による衰弱、認知症、脳卒中、骨折・転倒、関節の病気等が、介護が必要になった主な原因であれば、介護が必要にならないための健康づくり、介護予防を考えると、これらの対策を重点的に、一定年齢以上の全市民対象に取り組むことが必要だと思いますけれども、どのように取り組んでおられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

一定年齢以上の方、全てという考え方ではございませんが、やはり今、認知症につきましては、先ほどの一般質問の中でもお答えさせていただきましたが、運動、計算等を取り入れる形の中での運動教室、また食生活等につきましては、今まで市独自で取り組ませていただいておりますが、なかなか難しい関係から、職域、事業所との連携の中でより若い世代から、より多くの方にそういったものに関心を持っていただく、そういった取り組みを進める中で、お年寄りになっても元気にお過ごしいただけるような体制をつくっていきたいというふうに考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

例えば、高齢による衰弱ということについても、だんだん高齢になってきて、運動不足で機能障害を起こしてきているというものを、この中に入れるとすれば、当然、これは自然現象なんだということにはならないわけですね。そういうことも含めて、希望者や意識して取り組んでいる人たちを対象に取り組むだけでは、私は済まないというふうに思います。対象となる一定年齢以上の方たち全体を対象にした健康づくり、介護予防に取り組むような施策になっているのかどうかというのを、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

まず、健康づくりににつきましては年々、地区運動教室、より幅広くご参加いただける体制をつくってるところでございます。議員、今おっしゃる部分には、そういったところに、おいでにならない方々をどうするのかという部分かと思えますけども、やはりそういった部分につきましては、お願いをして出てきていただくというわけにもまいりませんので、やはりそれぞれ地域の皆様方から、そういった衰弱とか、そういった情報を小まめに、情報を入れる中で、私どものほうから個別に対応させていただくことが大事だというように思ってるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

いろんな事業をやるときに、こういう事業をやりますよと言って、集まってこられる方たちが考えている、自分の体をどういうふうにしようかということを、意識的に考えていらっしゃる方たちなんですよ。そうでない人たちにも参加していただけるためには、どういう仕組みをつくるかという、そういうことが必要なんではないかなと。

これは、介護ということだけでなく全体の取り組み、それが介護にもつながってくるという考え方なんです、そういうところで介護という点でいうと、体制的に、人的体制、これは十分、間に合っているのかどうかというふうに思うんですが、この点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

介護という形になりますと、65歳以上の場合であれば、福祉事務所のほうで担当させていただいております。

その中で、介護予防事業教室ということで、いろんな教室を開いています。その教室につきましても、直営ではなくて委託の部分もございますし、専門職、保健師もおりますので、各地域のほうに出向くことも可能でございます。

また、地域包括支援センターも各地区にございますので、その中でいろんな教室を通して、介護予防事業に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

この介護度を下げるためには、どうしても、もう少し幅を広げて取り組んでいく必要があるんじゃないかというふうに思います。介護が必要にならないための健康づくり、介護予防にしっかり力を入れて、取り組んでいただきたいと思います。

北陸新幹線の騒音対策についてであります。

高崎・長野間の北陸新幹線騒音防止等調停申請事件は、長野県と群馬県の住民から、日本鉄道建設公団（当時）を相手に調停を求める申請が出されたものですが、調停委員会からＪＲ東日本に対し、環境保全のための体制を確立することと、関係地方公共団体や地元との窓口を、明確にすることが要請されております。

糸魚川市はＪＲ西日本の管轄地域ですので、関係者はその後、鉄建公団がその後、名称が変わり、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構というふうになりました。それとＪＲ西日本、新潟県、糸魚川市の４者と、関係地域住民ということになると思いますが、それぞれの窓口は明確になっておりますか。それと同時に、それらの関係団体、一緒に話をする、そういう機会というのはありませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

鉄道・運輸機構、それから県、市については、それぞれ担当課がございまして、窓口等について

は明確になっております。また、地元につきましても、各区長さんなりおりますけども、糸魚川市では、北陸新幹線対策協議会というのがございまして、これは能生地域、糸魚川地域、青海地域の各関係区等が集まった組織もございまして、その辺も含めた中で、対策はとっておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

新幹線鉄道騒音に係る環境基準では、住宅地70デシベル以下、商工業用地等75デシベル以下となっております。環境基準達成は開業時直ちとなっております。

3月14日に開業して、9カ月になろうとしておりますが、まだ環境基準を達成するための工事が行われていないように思います。どのようになっているのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

国の環境基準については、住宅地で70デシベル以下については、確かに新幹線開業時直ちということになっておりますが、今、国のほうの環境基準の測定も行っております。その結果につきまして、結果が出ればやはり、直ちということにはなろうかと思いますが、それも一応、努力義務という形になります。

ただ、今、やはり音源対策としまして、トンネル工の緩衝口の塞ぐ工事、それからこれはJR西に委託で、委託協定を結んで、今年度中に工事を完了したいということでございます。それからまた、明かり区間については、吸音板の設置も行いたいということでございます。

また、そのほかにも、何ができるのか、どうすればいいのかというのを検討中ということでございますので、その2つだけじゃなくて、ほかにも音源対策については検討を行っておるという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

1つは、鉄道建設・運輸施設整備支援機構が騒音の調査をしていると。これは、市に報告はあるのかないのか。なければ、報告を求めると、そういうことはできないのか。

今、国のほうで調査をやられているということでありますけども、市もそういう調査結果の数字を持っていないと、なかなか話をするときに話づらいんじゃないかと思うんですね。明確にこうだということがあれば、はっきりと言えるでしょうけども、そういう点で、市独自調査をするという方法もあると思いますけども、その調査結果を市も把握しておく。関係者にも、それが通知されるというふうにする必要があると思いますけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

2次測定とかそういうものを機構で行っておりますけども、その対象範囲等については一応、把握はしております。ただ、その結果等については、機構のほうでは非公開という形にはなっておりますが、例えば地元に関わりして、おおよその数等については、把握をしておるところでございます。

それと、市の独自の調査ということでございますが、基本的には資格を持った者が、機構なりそれなりでやっておりますし、国の基準に基づいて測定をしておりますので、そのところは信頼できる数字ではないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

市が把握しているということが大事だと思うんですね。おおよそ把握ということでなくて、きちんと把握ということで、ぜひ、してもらいたいと思います。

それで、柱道の説明では、住宅の防音対策は、1部屋分の費用しか出せないと言われたうちもあったということであります。1部屋分というのもおかしいと思います。いってみれば、加害者が加害の額を決めるということになります。

環境基準を守らせるのは、自治体として当然のことだと思いますけれども、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

基本的に、環境基準を守るというのは、機構のほうの設備のほう、例えば防音対策のほうでやることでございます。それが、時間がかかったりそういうことから、その前に、例えば超えてるところについては、各関係、例えば家屋について、助成事業で防音対策を行うという形にはなっております。

今ほど言われた、例えば人数に応じて、対象の部屋が決まってくるということで、ひとり住まいのお宅については1部屋しか対象にならないということでございます。これについては、私のほうも、それでいいのかという懸念を持っておりまして、何とかならないかということで、機構のほうにも、その辺については要望をいたしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

ぜひ、強力に求めてもらいたいと思います。

1974年に、騒音振動の差しとめと、1人100万円の損害賠償を求めて起こした、名古屋新幹線訴訟では、過去の損害賠償は、ほぼ認められましたけれども、将来の損害賠償は認められなかったと。双方が最高裁へ上告した後で、和解が成立しております。訴訟後、騒音に関する環境基準が定められて、騒音対策が強化され、沿線住民への一定の補償、防音・防振工事の助成などの対策が進められるようになったとのことでもあります。

被害住民の声を聞いて、騒音被害の実態を、きちんと把握する必要があるというふうに思います。それぞれの、先ほど60件対象と言われましたけれども、それぞれの状況は把握をされておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

個々のお宅の、例えば中に入って確かめたということではございませんが、その地域において、やはり新幹線が通る騒音等については、外で確認はいたしております。個々ではなくて、その地域地域で一応、確認はいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

市では、おおよそ把握ということですけども、新潟県は把握されているのでしょうか。例えば環境省の調査は、県のほうはそれをそのままもらって、しっかりとそれを掌握してると、把握してるということなんでしょうか。それは機構からでも国からでも、どこからでもよろしいですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

全部の家屋ではないですけども、能生地区の柱道で一番、騒音・振動の多い家庭につきましては、私もそうですし、市長も現場へ行行って、実際、新幹線の通るところをきちんと、その辺を体験してるということでもあります。また、私のほうでは先日、そのお宅へ行行って中に入れてもらって、実際の騒音・振動も経験をしたところでもあります。

もう11月になりましたんで、正直言って、騒音はさほどでなくなったんですけども、ただ、振動は少し予想以上に多かったと、大きかったということで、その結果を持って鉄道・運輸機構の長野事務所のほうへ行行って、要望してまいりました。

特に、何ていいですか、ひとりですと1部屋しか防音工事をしないというのは、それは鉄道・運輸機構の基準ですけども、基準とかそういう決まりですけども、それじゃどうかということで、その辺もきちんと要望してまいりました。

ただ、その結果、今、鉄道・運輸機構では個々の家と、じかに交渉をしていると、その防音対策

の内容について。それについては、1軒1軒違うんだということですので、その辺を踏まえまして、またその辺、実際の話、私は騒音基準につきましても、鉄道・運輸機構から数字はもらえなかったものですから、それぞれのところからもらって、実際もらって対応しているというのが実態であります。

そういったことで、もう少し鉄道・運輸機構のほう、スピード感を持ってもらいたいんですけどもなかなか、1軒1軒交渉してるということで一応なんていいですか、時間がかかってるということも聞いてまいったんですけども、一刻も早く対応するように、今、また要望したいと思っています。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

トンネル出口といいますか、そういうところの改善は早急にやってもらうことが必要でありますし、日照とか振動の被害もあると思います。市としても、積極的に関係者間の協議に進んで、改善策が早急に実施されるように取り組んでいただきたいと思います。

国民健康保険についてであります。

糸魚川市の国民健康保険における医療費では、高血圧、脳こうそく、虚血性心疾患、糖尿病が県下でも高い状況とのことでありますが、この傾向は改善されているということによろしいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今、議員おっしゃった部分の中で、虚血性心疾患につきましては、県平均を下回っている状況でございます。他の部分につきましては、議員おっしゃるとおり県平均を上回っている状況でございます。ここ近年につきましてはその傾向に変更はないところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

原因は、どういうところにあると考えて、どういうふうな対策をとられておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

やはり、生活習慣が多く関係しているかと思いますが、また高血圧などにつきましては、やはり

濃い味つけ、そういったことによりまして塩分の摂取量が多くなる。そういったことによって、生活習慣病が出てるといような状況でございますし、また運動不足、そういったものも大きく影響しているというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

これらも含めて、健康寿命を延ばすための取り組みで、市民の皆さんに知ってもらおうということ、実際にしてもらおうということが必要ですけども、そのための体制が弱いんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

まず、職員の部分につきましては、担当ということになりますと、保健師が一番専門職でございますが、そちらの部分につきましては、これまで健診業務の比重が若干、高かった部分がございますけども、それらを委託のほうに比重を高めて、そういった浮いてきた余力につきましては、こういった指導等に当たる形でとらせていただいておりますし、また地区運動推進員、また食生活改善推進委員の皆様方のお力をかりる中で、取り組ませていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

体制のほうも、頑張るといってもある程度の限度があると思いますんで、ぜひ、そういう体制の強化ということも図って、これを進めていっていただきたいと思います。必ず、それが結果として出てくるというふうに、私は思います。

病気の早期発見・早期治療が、医療費を抑えるのに必要でありますけども、そのためには検診を受けていただくことが必要であります。現在50%くらいの受診率を、当面65%くらいにまで引き上げるための年次計画、対策、そういったものは立てておりますか。

以前、先進地を伺った際は、50%で5年を超せば医療費が下がってくると。65%まで受診率が上がれば、大幅に下がるというふうなことが言われておりました。

糸魚川市は、どういうふうな取り組みをしておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

まず、検診を受けていただくためにつきましては、レセプトデータ等が分析できる状況になって

+

おりまして、特定健診を受けた場合と受けてない場合で、3倍近い医療費の開きがあるというような結果も出ております。そういった部分を、市民の皆様方にわかりやすい形、より具体的な形でお示しし、そういった検診の重要性を、まず理解していただくことが大切かというふうに思っております。

また、受けやすい環境整備の中では、休日・日曜日の検診、また夕方の検診、そういった平日ですとなかなか受けられない方々も、受けれるような形の整備をした中で、進めてまいりたいというふうに思っております。

年次計画の部分につきましては、今、データヘルス計画を作成している段階でございまして、その中に、明示をしてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

有業率が高いと、医療費が低い傾向にあることは、統計にもあらわれておりますけれども、高齢者の自主活動で体を動かし脳を使うことも、健康寿命を延ばすことに役立つと思います。

総合的に取り組む上で、先ほど答弁にもありましたけども、関係部署間の連携というのは、うまくいっているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

それぞれの、主に今、お話しいただいた部分で言いますと、福祉事務所や生涯学習、また当課等が大きくかかわる部分でございしますが、そういったところにつきましては、事業の担当者レベルでの意見交換なり、そういった情報交換をさせていただいておりますが、先ほど市長答弁の中で申し上げましたように、現在、「健康いといがわ」の「第2次健康いといがわ21」を策定中でございまして、その中で関係課による庁内委員会を設置しております。そこから若干、絞った形の中で進捗状況を管理するための庁内委員会を設置いたしまして、その中で課題、またどういった実践をしていくのか、そういった部分の協議をしてまいりたいというふうに思っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

国保税の関係で、国の負担割合を2分の1に戻すことを求める取り組み。これは、引き続き行ってやられているのか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

2分の1へ戻すというような文言ではございませんが、全国市長会、そういったところを通じる中で、国保財政の財政基盤の安定化ということで、国のほうへは国費の増額等について要望いたしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

4の、65歳定年制について伺います。

高齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律では、支給開始年齢を60歳から65歳まで引き上げるのに伴って、雇用が継続されず年金も支給されないことによる、無収入となる者が生じる可能性があるために、定年の引き上げや定年の定め廃止、継続雇用制度の導入のいずれかの措置の導入を義務づけました。定額部分は2013年4月で引き上げが完了しております。報酬比例部分は2025年4月で引き上げ完了となります。

そうしますと、市職員は10年後には60歳で退職、65歳まで年金が出ないこととなります。条例はありますけれども、雇用と年金支給の接続が、スムーズに行くという根本を踏まえた、わかりやすい再任用基準が必要ではないかと思えます。県職では、希望者はほぼ全員、再任用されるのですが、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

地方公務員法によりますと、定年退職者の方につきましては、従前の勤務実績等に基づく選考により、1年を超えない範囲内で任期を定め採用することができるという決めに なっておりまして、私どもも、希望がある方については、できるだけ再任用していきたいものはございますが、ただ、ご本人が希望する職種等がございますし、そういうところで、こちらがお願いしたい職種と合わないこともありまして、全員かなわないことがございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

定年になって退職したと。年金が出るまで5年間あると。そういうことをなくするために、再任用というのがあると。基本的にそういうことを置いておかないと、大変だと思うんですね。そういう、基本的には給料は下がったとしても無年金者を出さない。基本的に、希望者は再任用することが必要ではないかと思えます。ぜひ、そういうことで取り組んでいただきたいというふ

うに思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

お答えします。

今、段階的に年金をもらえる年数が上がってきておりますが、先ほど市長の答弁にもございましたように、再任用職員の増加によりまして、新規採用職員に影響があることから、職員労働組合にも協議いたす中で、年金の支給開始年齢まで再任用でお願いしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

基本的なところを踏まえた上で、運用に当たっていただきたいと思います。

現在、職員の一定割合を、障害者雇用に充てるのが義務づけられていると思います。これ、民間であっても、市役所であっても同じことではないかと思いますが、再任用に当たっての、障害者雇用についての考え方はどうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

障害者雇用については義務づけられておりますので、それに適合するよう努力いたしますし、日頃お願いしている職員で足りない場合は、再任用職員でお願いすることもございます。ただ、今現在、再任用の方でお願いしなくても、基準数には達しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

この先、年金支給年齢の再延長のようなことも言われている模様であります。雇用と年金支給の接続が、スムーズに行くようにしてもらいたいと思います。

法律の趣旨を理解し、誰もが納得できるように当たってもらいたいということを述べて、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（倉又 稔君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。〔12番 伊藤文博君登壇〕

○ 12番（伊藤文博君）

清政クラブの伊藤文博です。

子ども一貫教育方針の推進について質問いたします。

平成22年3月に「ひとみかがやく日本一の子ども」というキャッチフレーズの「子ども一貫教育方針」が定められました。

しかし、5年半が経過した現在でも、その成果は、市民の実感として響いているとは言えません。昨年度に方針の改定がなされ、現在、基本計画の改訂版を策定中ということであり、議会委員会でもまだ説明されていませんので、これを中心に教育行政全般について伺います。

- (1) 子ども一貫教育方針等改訂の理由と課題とする重要なポイントは何か。
- (2) 改訂内容はどのような段階（組織）を経て検討されているのか。
- (3) 教育現場（幼・保、小、中、高）の声は、どの段階でどのように取り入れられていくのか。
- (4) 保護者や生徒児童の声は、どのように生かされていくのか。
- (5) 教育委員会（委員）は策定にどのようにかかわっていくのか。
- (6) 推進段階の教育委員会（委員・事務局）と教育現場（幼・保、小、中、高）、地域、家庭の連携が重要だが、どのように図っていくか。推進体制はどのように考えているか。
- (7) 策定された方針が形骸化しないための臨機の改定について、どのように考えているか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、社会情勢や学校に求められる状況の変化、また、キャリア教育の重要性が高まっていることから、昨年、基本方針の見直しを行っています。

問題は3点あり、1つ目は学力の向上、2つ目は社会性や道徳性の育成、3つ目は家庭・地域とのさらなる連携であります。

2点目につきましては、上越教育大学教授を委員長として、「豊かな心」、「健やかな体」、「確かな学力」の3部会と、「キャリア教育」、「糸魚川ジオ学」、「特別支援教育」の3班を組織し、基本計画の素案をまとめ、パブリックコメントを経て、3月の策定を予定しております。

3点目と4点目につきましては、園、学校、PTAの代表を策定委員としており、現場の声を取り入れております。また、児童生徒の声につきましては、全国学習状況調査や学校評価等の結果を踏まえ、計画に反映しております。

5点目につきましては、途中段階や中間案、改定案の各段階で、教育委員会において協議しております。

6点目につきましては、教育委員会、園、学校、PTA、地域で情報共有ができる機会を設け、中学校区単位で推進できる体制としてまいります。

7点目につきましては、平成35年度までの長期計画であるため、定期的に取り組みの成果を検証し、必要に応じて計画を改定することとしております。

以上、ご質問にお答えいたしました、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

計画の成り立ちをPDCAサイクルをもとに考えると、P・計画では理念と具体策、D・実行では周知・連携・実践、C・検証とA・改善では随時性が求められると考えて質問いたします。もちろん実行の手法は、計画の中に盛り込まれていなければならないということでもあります。

まず、改定に当たっての検証ですが、平成22年度に定められた方針が、5年たった昨年度末に見直され改定されたわけですが、5年間の総括として一貫教育方針の推進が、日本一を標榜するものに足る成果、手応えがあったかどうかお答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

議員のご質問にお答えをいたします。

昨年度、上越教育大学の先生を中心に検証委員会を立ち上げ、これまでの成果、課題についてご協議をいただきました。16名の方々に委員になっていただき、課題、成果をまとめました。それにつきましては、先ほど教育長の答弁にあったとおりであります。

一番の成果としては、幼稚園・保育園、小中の連携ということができてきているということかと思えます。また、不登校の発生率につきましても、最初のころと比べますと、発生率が減少しているということは、成果の1つというふうに考えております

課題としては、先ほどありましたように学力の向上、そして減ったとしても不登校・いじめということで苦しんでいる子供たち、保護者の方がおられるということは、それは大きな課題でありますので、その解決ということが大きな課題と言えます。そして、縦のつながりができてきましたので、今度、横の連携、学校と家庭、地域の連携ということが大きな課題として考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

ここまでも、いろんな議員が質問してしまして、今の話はわかるんですが、分析すると、項目を挙げるとそういうことです。私が聞いたのは、日本一を標榜するものに足る成果、手応えがあったかということですよ。そこにちゃんと着眼して答えてもらわないと、これ根本のところですから。

で、これからどうするのかですよ。だめだだめだとかという話をする気は全くないんです。じゃ、今後どうするんだというものにつなげていくために、現状をしっかりと認識するというところが、まずスタートラインですから。教育長、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

この一貫教育方針を策定する際の趣旨として挙げたものが、基本理念につながっていく事柄でもあるわけですが、子供の教育をめぐっては今までは、今現在もそうなんですが、家庭教育とか幼児教育とか学校教育とか社会教育、こういうものが主になって動いてきております。

ところが、子供が実際に育っていくというのは、どういう育ちをするかということ、一貫的に育っていくわけですから、この段階でこう、この段階でこうと、子供ががくっがくっと変わっていくわけではなくて、そのつながりの部分を大事にしていかなければいけないということで、それは各段階での教育も大事なんですが、体系的・系統的に整えていくことが重要であろうということで、一貫教育方針を策定し、健康・心・学力のバランスのとれた子供の育成を図っていくなどの、基本理念を決めました。

そして、この中で先ほど答弁したように、1番大きな成果としてあらわれてきているのは、先ほどのいろんな議員の質問の中にも、お答えしているわけなんですが、やはり9歳までの生活習慣が、ある程度きちんとついてきているだろうというところが、1つの大きな成果であるかなということで捉えております。

以上です。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

+

午後4時14分 休憩

午後4時15分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

「早寝早起きおいしい朝ごはん」ということについては、非常に取り組みが進められており、全国アンケート調査でも、全国比よりも高い、小中学校ともに高い結果になっておりますので、これについては、十分な成果というふうに言えると思います。

そのほか、学力面等につきましては、まだ十分に、そこまでは至っていないというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

スタートラインですからね。平成22年度の策定委員会名簿を見ると、小中学校の校長・教員、幼稚園・保育園の園長先生、社会教育委員や青年会議所の役職者や学識経験者で構成されている。この方々、素晴らしいメンバーですよ。

ただ、その方々がどこでどのような人たちの意見を吸い上げて、検討材料とするのかというところが、非常に大事なところであり、また、実践する立場の人が策定する立場になると、思考形態が変わってしまうということもあるんです、ある意味。そのことは認めていなきゃいけない。

何よりも認識していなければならないのは、6年前に定められた方針と基本計画では、まだ市民の手応えを得るところまで行ってないということなんです。今、足りないところがあるということ、まず最初に認識して、何が足らなくて何を工夫しなければいけないのかが、わかっていなければ、計画をつくり直しても魂が入っていない、いつまでたっても一緒だということなんです。

そういうようなことにならないように、今、私が幾つか言った点をちゃんと認識して、基本計画を策定されているんでしょうね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

現在、基本計画を策定している最中ですが、豊かな心部会・健やかな体部会・確かな学力部会、キャリア教育・ジオ学習・特別支援教育という3つの部、3つの班で構成をされており、各部・班とも、7名から10名の委員で形成されております。全員で51名の部員・班員で、今、策定しております。メンバーにつきましては、園・学校の教職員、保護者、民生・児童委員、人権擁護委員、地域コーディネーター、社会教育委員、市のスポーツ推進委員、福祉施設の関係者なども、委員としてなっております。

今までの議員のご指摘のとおり、策定となると、現場の実践者という視点が抜けてくるのではないかということのご指摘、確かにそういうこともあるかと思います。また、そのご指摘を十分、心にとめまして、策定委員会を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

本当に認識して、取り組んでもらいたいと思います。

考え方を聞いていきますんで、細かい個々の方針ということじゃない質問をしたいと思っております。まず最初に、一貫教育方針のメインのテーマとなっている、「ひとみかがやく日本一の子ども」をちょっと掘り下げてみたいと思います。

「0歳から18歳までの子ども一貫教育方針をご理解いただくために」という文章ありましたよ

ね。これを改めて読んでみると、なかなかちょっとわかりにくいところがある。この辺をしっかり解明しないと、読んだ人、実践しようとしている人に響かないんですね。「日本一の子どもをはぐくむこと」というところで、「学力やスポーツ等の一分野をとりたてて日本一にという位置づけではありません。日本一を目指すという目標に向かい学校、地域、家庭が、それぞれの役割を果たす課程で育つものを大切にしようとしています」という文章あるんですね。

ここで言う「日本一を目指すという目標に向かい」、これちょっと説明してもらえますか。どんな日本一、何が日本一なのか、日本一を目指すという目標というのは、何を目指してるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

そこの文章にあります「日本一を目指す」ということについては、個々のことについての日本一ということではなくて、日本一の子供たちを育てていこうという気構えといいますか、目標といいますか、スローガンといいますか、そういうことをそこの文章であらわしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

そしてその続きですが、「それは、日本一という心構えを持ちながら取り組み、努力し、指導や応援を重ね、熱意を持って子どもの教育に携わっていくという子育て環境を、市全体で整えていくということです」、後半はわかりますね。しかし「日本一という心構えを持ちながら取り組み」、これも私にはちょっとわからない。説明してもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

日本一の子供たちを育てたいという大きな目標、大きな心構え、気概を持って、学校そして家庭、地域が連携をして、子供たちを育てていこうということを、そこに記してあるということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

そう答えるしかないと思うんですけど、実際にわからないんです、読んでもね。そこをやっぱり、まず認めてもらう、認識してもらって、そこをわかりやすく、今回の改定のところで改めていってもらわなきゃいけないということなんですよ。

過去の一般質問等で教育長は、日本一の子供を育てるとはどういうことだと、私が何回も質問をして、確認を別の会でもしてますが、日本一の子供を育てる仕組みづくりだと、目指すのは日本一の子育ての仕組みだよということを答弁してもらってますが、そこをここで明確にしていかなきゃいけない。

ところが、あの答弁があった後も、残念ながら出てきてないんだよね、いろんな公式なところにその意味合いが。だから、やはりそれを明らかにしていかなきゃいけないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

日本一の子供を育てますという言葉、その意味の中にどういうことが含まれているかという、やはり生まれ育ったふるさと糸魚川を愛するというのが、1つ関係してくるかと思います。そして、一人一人の個性を生かしてその能力を十分に伸ばす、それから、成人した後も糸魚川で育ってよかったと実感できる、こういうことが日本一の子供という言葉につながっていく。我々は、そのように捉えております。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

+

+

午後4時23分 休憩

午後4時23分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開します。

○教育長（竹田正光君）

すみません。

そういう子供たち、今、日本一の子供、生まれ育ったふるさと糸魚川を愛したり、一人一人の個性を生かしてその能力を十分に伸ばしたり、そういう子供たちを、さっき、体系的とか系統的という言葉を使わせてもらったんですが、結局、体系というと組織になっていくのかなとは思いますが、でも体系というのは、知・徳・体3つに分けることができると思います。そして、組織というのは、園・学校それから家庭、地域、こういう3つの組織に大きく区分けすることができるかと思うんです。そして、それを系統的にきちんとまとめてある。その系統に沿って、それぞれの組織の人たちが、子供に働きかけていくことが、我々はシステムというふうに考えているんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○ 1 2 番（伊藤文博君）

ですからその思いが、前に答弁してくれた日本一の子供を育てる仕組みだよと、仕組みは日本一のものをつくっていくんだよと、今の系統だったもので。そこを明確に、今後の計画の中にわかりやすく盛り込んでもらえますねということを言ったんですわ。考え方はわかってるので、そこが、ところが、計画には読み取れないからということをおっしゃるんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

当市の子供一貫教育は、学校、家庭、地域社会総ぐるみでの、子供たちを育てていこうという一貫教育方針、そしてそれに基づいた計画であります。ですので、その学校、家庭、地域が一緒になる、コミュニティスクールというような取り組みについても、今、検討を進めており、来年度、試行的に、糸魚川小学校とひすいの里総合学校を、コミュニティスクールに指定するということを考えて、今、準備を進めている最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○ 1 2 番（伊藤文博君）

だから、その個別のことを聞いてないんですって。

日本一の子供を育てる仕組みづくりが、日本一の仕組みをつくりたいと、その考え方をしっかりと、計画の中でわかりやすく盛り込んでもらえますねと言ってるんです。それ以外のことは聞いてませんよ。

物すごい面倒くさいことを聞かれておるんじゃないかと先入観を持っておるから、そういうふうになるんかもしれんけど、簡単なことしか聞いてないんでお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

大変失礼をいたしました。

学校・園、家庭、地域、3者で連携しながら、子供の自立を目指すということを、基本計画の構成としておりますので、そういったところを明確にした計画をつくっていきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○ 1 2 番（伊藤文博君）

日本一だけで30分やらなきゃいけん。

+

何が日本一なのかと、日本一と言ってる以上は、日本一が何なのかということを、明確にしないといかんということを言ってるわけですよ。日本一なのは、子育ての仕組みが日本一を目指すんだというところを、はっきりしてくださいと言ってるわけです。ほかのこと聞いてない。日本一と言ってるから、日本一を明らかにしてくださいと。それを、基本計画の中で明確にしてもらわないと、誰の胸にも響きませんよということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

基本計画の中で、それらのことを、きちんと明確に示せるようにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

そういう意味で、子育て環境を、市全体で整えていくという言葉も入ってるじゃないですか。ちゃんと言ってるんだけど、日本一のところで、わけのわからん書き方するから、わからなくなっちゃうんですね。全体に、そのところをやっぱり、わかりにくいところを改善して、わかりやすくしていってもらいたいということですね。

平成22年に、子ども一貫教育方針が定められスタートしたんですが、平成21年度からの教育費の状況というのはどうなってますか。これ宣言してから、ふえてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

数字的なものは、今、持ち合わせておりませんが、それ以降のことで申し上げますと、教育補助員の配置でありますとか、それからICTの学校への導入とかで、そういった面での経費は、増加しているというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

単純ですけどね、決算の数字から、決算参考資料にある主な事業の費用を引くと、全然ふえてないんですよ、実は。教育費が、そうふえてるとは言えない。

予算をかけないで、教育の向上、日本一の子供を育てることができたら言うことはないですけど、そうはいかないですね。どうしても、動くには資金が要る。必要なところに資金を投入し、同じ費用でより多くの効果を上げる努力をしていかなければならない。

日本一の子供づくり、日本一の子供を育てる、日本一の子供を育むと、いろんな言い方をしてく

てますが、市長の公約や任期中に立ち上げた政策には責任が伴いますね。

決算の経過を見たところで質問しますが、予算かけないでどうやって教育の向上を図ろうとしたんですか。細かいことはちょっとわかりませんが、大きな変動がないという前提でお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

すみません、正確な分析ができておらないまま答弁をしておりますが、結局、東日本大震災以降、まずは、学校施設の耐震化、避難所としての耐震化というところで、当市も非常に大きな老朽した校舎の建てかえ等で、教育費の中で、それを抱え込んでおったために、そのしわ寄せが、今、議員のご指摘のところに、あらわれてきたんじゃないかというふうに思っております。限りある財源ということで、力の入れどころを今、学校施設等の耐震化に、これまで注いできたということだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

予算かけなきゃだめですよ。そこを、今、押し問答してもしょうがないんで、以前に何度も質問で取り上げてますが、兵庫県小野市は、教育レベルの高い兵庫県においても、教育のまちとして名をはせている。平成22年2月に視察に行っていますが、平成10年度から20年度までの間に、学校教育予算が3.6倍の伸びを示してるんですね。これはもう市長の方針です、教育に力を入れる。パソコン、プロジェクター、実物投影機を各全教室に配備している。これも糸魚川で、電子黒板を景気対策で配置しましたね、1校に1台。これ、使われてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

電子黒板につきましては、実態を見ますと、学校によるといいですか、教員によるというところが実態としてはあります。全学校で、そして全職員が、一生懸命使っているかという、まだまだ十分ではないという実態がございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

ハードだけ与えても、ソフト面が支援がなければだめだし、ハードも中途半端な配備じゃだめなんです。このときも言いましたけど、立派な、例えば液晶だとかというようなテレビじゃなくて、プロジェクターのスクリーンのほうに、ちょっと機械をつけると電子黒板になる安価な物もあるか

ら、もっとたくさん配備しなさいという話も委員会でもしたんですけど、そのまま行っちゃった。結局、中途半端になってる。

今、差があると言いましたが、使われていないですよ、実際は。ほんの一部の職員が使ってるかもしれない。移動することも面倒だからできない。そのために、休み時間じゃ準備できないのが現状だということです。

そういう状況を、教育施策について財政を握る、総務部企画財政課は把握していますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

電子黒板の使用について、今、現状を聞いて、ちょっとショックを受けております。

入れる際にはやはり、しっかり教員研修等をして活用するということで聞いております。そういう面で言うと、もう少ししっかりと活用してほしいというのが、私の感想です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

違うんですよ、活用できないの、今の配備じゃ。だからそれは、最初から委員会でも言ったじゃないですか。言ったとおりになってるんですよ。やっぱり、そういう現状を、認識してもらいたいと思います。

要するに、子ども一貫教育方針基本計画は、理念だけではだめだということで、明確な手法が示されて、児童生徒、保護者、学校、地域社会が理解できるものにしていかなければいけないですね。さっきみたいな中途半端な日本一という表現も明らかにしていかなきゃいけない。

例えば「じゃれつき遊び」、「早寝早起きおいしい朝ごはん」、さっきから出てますけど、これは明確で誰にもわかりやすく、即実行されて、即効果が出ている。

一方、「一人ひとりの個性を生かしてその能力を伸ばし、子どもの夢を育てます」と言ってますけど、その手法は、連携をとってかわっていかねばならない各分野に対して、あなた任せになってるんですね。基本計画は、実践に結びつかねばならないから、教育学的な視点から、実践への道しるべとなっていくべきである。教育学的な羅列では、実際どうしていいかわかりにくくなってしまってますね。

例えば、総文で視察に行ってきた三郷市の「日本一の読書のまち三郷」のように、明確なキャッチフレーズ、宣言があって、そして総体的な取り組みが明確にされていくということが必要であると思いますが、これは計画全般にですね、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

三郷市の取り組みにつきましては、情報をいただいております。とても、１点集中といいますか、非常に焦点化されているというところが、非常にわかりやすくなっておりますし、実践もしやすいものだなというふうに考えています。そういったことも、また、これからの一貫教育の基本計画に、役立てていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

読書については、別の推進計画のほうでやっていきたいとは思いますが、例えば三郷は「子育てのまち三郷」とも言ってるんですよ。これしかやってないわけじゃない、総体的に子育ての充実に取り組んでいることということですね。

教育現場の声は、どのような段階で取り入れられていくのかという話ですが、全ての教員が、糸魚川市の方針を理解し、積極的なわけではないということも認識しなければならない。現状ですね。

現場の負担感の軽減、そして解消も重要な要素であり、やりがいを感じながら取り組んでいく仕組みづくりをしていかなければいけない。現場の声を聞いていくことは重要だと思います。

どのような頻度で入り込んで、どうやって現場の実態をつかんでいくのかということも大事だと思いますが、これはどういうふうにやっていくんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

毎年、各学校にはアンケート調査を実施しておりまして、そういったところから、実際の取り組みについて評価を得たいと思いますし、今年度は昨年度よりも、指導主事の学校訪問をふやしておりますので、各学校へ直接に出向いて、職員の声を聞き、それに生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

ぜひ、学校訪問の回数をふやしていつてもらいたいと思いますし、先ほど取り上げたＩＣＴの活用などは、一時的にはちょっと負担となるかもしれませんね。

しかし、手法が確立され、ツールがそろえば、教職員の負担を軽減し、やりがいを持たせることにつながっていくと。もともと、志して教員になった人たちを、現状から一步踏み込んだ対応をすることにより、教育現場を改革していかなければ、特色ある子育ての仕組みを構築することはできないというふうに考えます。ここへの取り組み、重要だと思うんですよ。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

おっしゃるとおりかと思います。

特にＩＣＴにつきましては、機器だけあっても、やっぱり使うのは人間でありますので、教職員の研修ということ、そして指標といいますか、そういったことも考えていかなければなりません。来年度、情報教育についての、市としての考え方というか進め方を、現場の先生方と一緒に考えて、つくっていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

今の話は、ＩＣＴにこだわった話じゃないんですよ。

例えば、計画で仕事があふえて、１０の仕事をさせられて１の効果しか上がらないというのは、おもしろくないですね。誰もやる気なくなる。だけど、５の手間をかけて、１０の効果を上げるようなことを考えていかなきゃいけないということですよ。

今度は、保護者、生徒児童ですが、これは声を生かすという言い方をしましたが、保護者や生徒児童の現状を知ることから始めるべきであって、その中の有益な情報を、計画に生かしていくという視点が重要だと思うんですよ。

例えば、「夢を育てる」という部分でも、子供たちの状況を確認しなければなりませんし、基本計画の「確かな学力の育成」のところで、１５歳までの思春期前期のところですが、「夢や目標に向かう意欲づけと励まし」というのがありますね。この内容などは、家庭の協力、家庭との連携が全てあります。ということは、家庭の状況を知らなければ、打つべき手もわからない。

どのような手法で、アンケートなんていう中途半端なことじゃなくて、どのような手法でこれを把握し、そしてその情報を共有、分析して、改善策の検討をしていくのかということなんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

子供たち、そして家庭の実態についての把握ということについてですが、なかなか詳しいところまで実態を把握するということは難しいところがあります。アンケート調査等で実施をしていくということもありますが、こども課の相談員の方に、実際、相談される方もいらっしゃいます。また、先生方、幼稚園・保育園そして小学校、中学校の先生方に、保護者の方が相談されるということもございます。そういった声も拾って、計画に生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

今、質問すれば、そう言いますよね、相談員に相談された情報を生かしていきたいと。

でも多分、計画策定の段階では聞きませんよ。それはそれ、これはこれで、なかなかつながっていかないんですよ。つながりにくいんだと、いろんな情報がつながりにくいということを認識することが大事ですね。

今、こっちへ向かって子供のことをやってるのと、こっちへ向かってやってる。これ、こことここがばらばらになってるなんてこと、よくありますから、その辺しっかり認識して取り組んでください。

例えば、「夢の実現に向けて励まし支援する」として、「夢や目標について家族で話し合いました」となってますよね。こんな簡単なことであっても、保護者にちゃんとこの情報が伝わってるかですよ。話し合ってくださいよという、その糸魚川市の方針が保護者に伝わってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

家庭に、その情報がきちっと伝わっているかということですが、それが一番の反省のところだと思っています。新しい一貫教育の方針のところにも、子ども一貫教育の市民への周知というところが課題というふうに書いてありますが、そういったところは、十分に周知していかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

私が言ってるのは、そういうふうに現状をしっかりと正しく把握して、今、改定中の計画に、生かしてってもらいたいということですから。

今のは周知ですけど、今度は具体策ということで言うと、じゃあ、その多くの保護者が、残念ながらその手法すら、おぼつかないわけですよ。子供と夢を語ります。だって、おいちょっと夢語ろうかなんて、そんな会話にならないでしょう。やっぱりそういうところから、親子の関係づくりの具体的な取り組み事例が必要になってくるということだと思うんです。理念だけではだめなんですよ。

だから、周知すること、具体策をちゃんと示して、やりやすくしてやるということ。その観点ではどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

現在の「夢を育てる」というところでは、キャリア教育という部会で、今、計画を立てておりますが、今あるものを見ましても、まだ十分、具体的になっているかというと、具体性がまだ十分ではないかと思います。議員のご指摘にも、これからの改定に役立てていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

どうも、基本計画を見ていると、学術資料みたいなんですよ。要するに、実践計画とは、なかなか受け取りにくいというところで、それは書いてあることは正しいし、立派なんですよ。それが、どうやって実践に移していいかということが、例えば学校、家庭、地域それぞれが、やはりなかなかわかりにくい。そうすると、今、全体を書いてある計画を、それぞれの家庭用とか、地域用の手引書みたいな物が必要になってくるのではないかと。本当に、子ども一貫教育方針をしっかり推進するんなら、そういう取り組みが要すると思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

前回の、推進策定委員会の際にも委員の中から、それでは家庭では一体、何をすればいいのか、この時期に学力向上で何するのか、心を育てるのに何をするのかというのが、ぱっと一目でわかるものが欲しいという、ご意見がございました。

そのとおりだなというふうに思っておりまして、議員おっしゃったような、別のものにするか、または、今つくっているものの後ろのほうに、家庭ではどうなのか、家庭ということで、心・体・健康というところで考えてみたりというような、別刷りのもの、別に整理したものを、表としてつけ加えるということも考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

今の答弁はちょっと不安なんですよ。また、項目と、やらなきゃいけないことをまとめただけでは、なかなか手引書にならない。やっぱり、もうちょっとわかりやすい何か、例えば漫画を入れたようなものの中で、わかりやすくしてもらおうということも、予算がかかりますけど、やってもらわなきゃいかんと思います。

方針には、「子どもが夢を描き、その夢を育てる展開」というところで、「糸魚川で育つ子ども一人ひとりが自分の将来の夢や希望を描き、目標に向かって努力を重ねるとともに、その実現に向けて家庭や園・学校、地域が一体となった取り組みを推進している」ということですね。「学校教育ではキャリア教育の推進を通してはぐくんでいく」とあります。

この「一体となった取り組み」が、どのような具体的手法で推進されていくのか、ここが明らかになっていない。理念はいいですよ。どうやって一体的にやっていくのかという。さっき、コミュニティスクールの話もちょっと出てましたけど、やはりそういう具体的なものを、進めていかないと無理だと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

一体となった、子供たちへの指導ということでは、やはり、より学校教育に対してのかかわりが深まるコミュニティスクール、学校運営協議会ということの仕組みが効果的ではないかというふうに考えております。上越市でも取り組んでおられ、今年度、全国大会が行われたわけではありますが、それについても、市から何名かの先生方が行っておりますし、当課の職員も参加をし学習、研究をしまいったところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

何回も言いますけど、今、策定中の計画を、いいものにしたいと思って質問してますので、そのつもりで教えてください。

やはり、教育委員会の、会議体の教育委員会と事務局、そして教育現場の連携が十分に図られていることが、これも重要だと思う、学校教育のところでは。もっと情報交換を頻繁にして、コミュニケーションをよくとって、やっていかなきゃいけないと思うんですが、これどういうふうに図っていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

現在の基本計画につきましては、10月の教育委員会で、方向性とスケジュールをお示しし、11月の教育委員会で、これまでの素案を報告いたしました。12月の教育委員会で、中間案について、ご意見をいただくということを考えております。

教育委員の皆さんからのご意見というものを、もっと頻繁に受け、そしてその意見について、この基本計画に生かしていかなければならないなということを、今、考えております。

教育現場との連携につきましては、校長会ですとか、また、策定委員の皆さん方も委員で、策定委員の皆さん方の中にも、現場の先生がたくさんおりますので、そういった方々との連携も図っていきいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

私が、ある程度持つてる情報の中では、やはり市教委と教育現場の意思の疎通が、もっともっと活発にしていかなきゃいけないじゃないかなという感想を受けてますし、それから、人事は県の教育長が握ってるんですから、県との連携も重要だということである。

残念ながら現状は、糸魚川市の扱いは重いとは言えないようであるという情報もあります。

昨年度末のごたごたにより、人事にも影響しているとすれば、よい教員が糸魚川市にそろわなければ、教育現場はよくなる。

これは、どのようにこの関係を円滑にしていくか。やっぱり足を運ばなきゃだめだし、会いにくい人ほど会わなきゃだめだし、しゃべりたくない人ほどしゃべらなきゃならんしということだと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

県の義務教育課の課長と会うのは、年に数回しかないわけですが、機会をつくって、会う回数をふやしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

通常以上に、やっぱり足を運んでもらいたいですね。いい関係を築いてください。

学校と地域の連携が重要なんです、いかに地域の学校への協力を仰ぐか。これは多分、校長の取り組みが大きいと思います。

さっき、高校のところでそういう話も出てましたが、上越市の中郷中学校の取り組みですが、生徒の発想を生かし、子供から大人まで地域全体で保護者が前面に出る、新しい文化祭を企画・実行したんですね。新聞でも報道されていました。生徒や保護者にとどまらず、地域住民も訪れ、大変にぎわったそうであります。生徒に文化祭のアンケートを実施し、寄せられた意見をもとに、屋台村での昼食販売、地域住民の作品展示、500席満席でのステージ発表が行われた。これまで、学校と関係のない皆さんにも学校を訪れてもらう非常にいい機会になったということなんです、こういう取り組みどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

私も、その報道について承知しております。とても、地域を巻き込んだ、ダイナミックな活動だなというふうに考えております。

糸魚川小学校と、ひすいの里総合学校をコミュニティスクールにということで、先ほどお話ししましたが、今年度、両校が一緒になって、夜、コンサートを地域の方に来ていただいたりして、演奏者は保護者の方だったりというような、コンサートを開催しております。そういった、地域に開かれていく活動ということ、これからどんどん、学校でやっていくということが大切かと思っております。

○議長（倉又 稔君）

ここであらかじめ皆様にお諮りをいたします。

本日の終了予定時間が午後５時を回る見込みになってまいりました。

このことから会議時間の延長を行いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

ご異議なしと認め、そのように決しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

今の、文科省のコミュニティスクールの取り組みは、地域連携に本当にぴったりですね。

例えば田沢小学校の後援会では、毎年の会議で、助成金を出すにとどまらず、何かできることはないかと、いつも話が出るんですが、実際、何をすればいいのか、どのような手法があるのかわからないので、多少の改善にとどまっているという状況ですが、コミュニティスクールこそ、地域の思いに、方向性を与える絶好の手法だと思うんです。やっぱり、推進してもらいたいということです。これはまた、やってもらうということなんで、報告をもらいたいと思います。

教育委員会、先ほどちょっと答弁ありましたが、教育委員会の、会議体のほうの教育委員会の扱いが、形骸化していると。法律や条例で定められたことを教育委員会の議題として、本来、独立した機能を持たなければいけない委員会が、市長の方針を追認するだけの機関としての扱いになってしまっているのではないかと。

これは、糸魚川市だけではないと思うんです、どこもみんなそうだと。だとすりゃ、変えなきゃいけないと思うんですがどうですか。これは、教育長をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

追認だけの機関になっているということではないと、自分自身では捉えております。会議の時間も、結構、長くなってきておりますし、今までと、姿は少しずつ変わってきてると。自分たちの意見を言うことも、結構、多くなってきておりますので、単なる追認機関ではないということを、明言したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

いやそりゃ、委員の皆さん、思いがあるからいろいろしゃべりますよ。だけど、この糸魚川市というものの中的位置づけが、そうなってしまっているんじゃないかと、長い歴史の中で。今の扱いがどうこうじゃなくて、もう要するに現状としてそうだと。だから、教育委員会不要論が出るんじ

ゃないかということですね。ところが、そうではないわけですよ、今回の見直しでもそうじゃないんだからそこをしっかりと、現状をしっかりと把握しなかったら改革はできないと、さっきから言ってるじゃないですか。もう1回どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えします。

今ほど、形はだんだん変わってきているというお話をさせてもらいましたが、当初は、そうではなかったのかもしれませんが、でも、一人一人がきちんとした意見を持って、その意見を言うようになってきたということで、変わってきてるなという捉え方をしてるということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

教育委員長は、教育委員の中から選ばれ、教育委員会の会議を主催し教育委員会を代表する。教育長は、教育委員会の中から任命され、教育委員会の指揮・監督のもとに、教育委員会の属する全ての事務をつかさどり、事務局の事務を統括、そして所属職員を指揮・監督する。教育委員長は、こういう立場ですよ。教育長は、教育委員会の指揮・監督のもとに、実際そうになってないでしょう。気分的な話してるんじゃないんですよ。そこを聞いてるんです。だとしたら、現状を把握して、何かやっぱり変えていかなきゃいけないじゃないかということ言ってるんですよ。防御ばっかりの答弁してたら、この点、とことんやらんといけなくなりますよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えします。

企画・立案するのは、我々事務局の仕事ですが、その企画・立案のところに携わってきているかというと、そうではないということが言えます。そここのところを、やはり反省して、動いていく必要があると思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

それで、やっと一歩前進ですね。

優秀な方々は、議会の同意を得て任命していて、やはりその人材を生かさないことが、どれだけの損失になってるかということだと思っんですよ。やはりしっかりと、ある能力を十分に生かして取り組んでもらいたいと思いますし、また、狭い意味の教育委員会の事務局が、広い意味の教育委

員会という、非常にわかりにくい構図ですよね。これ、変えたらどうですか。都道府県は教育庁と言いますね、省庁の庁。市では教育局と言うところもあるし、教育委員会事務局と言っているところもあります。これ明確にしないと、名称が一緒に、なおさら扱いが曖昧になってると思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

おっしゃられるように、一言で教育委員会という言葉を使ったときには、伊藤議員がおっしゃるように、ちょっと紛らわしい面があるというのは、感じるところであります。

現在の、教育委員会の事務局の体制は、正しくは、教育委員会事務局と言うべきなんだと思いますけれども、それを教育委員会というような形で、事務部門の体制も、そういう呼び方をしております。何か、単純にわかりやすい言葉があれば、そのような形で呼んでいくことも必要かと思っておりますので、今後の検討かというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

私が言ってるのは、わかりにくいだけでなく、それが同じなために、大事な本来の教育委員会が、扱いが曖昧になってしまってるということも考えられるということです。そうすると、教育委員会と教育局だとか、教育委員会事務局というのが別だとすれば、ここは明確になっていくと。実際、陰に隠れてわからんような状況になってしまってるんじゃないかというところを、やはり考えないとだめだということですね。

それから今度、臨機の改定について聞きますが、計画が立派な製本されてることに、違和感を覚えますよ、我々民間人としては。ちょっと何か必要があれば、改定して第何版、第何版と改定履歴をつけて改定していくのが、実際の計画ですよ。ひどい例が、予算書です。議会にかけられた時点で製本されておる。変えないことを前提に、議会にかけてるようなことになってしまってるわけですね。そういうふうに思っていないでしょうけど。

だからやはり、例えば総合計画であっても、例えば市長が新しい公約を出したら、必要なところは変えていくぐらいの考え方がなきゃだめだと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

総合計画のほうの件については、以前にも伊藤議員のほうから、お話があったところであります。確かに時代の変化で、現在のように時代の変化が激しいときには、最初に策定したものを、またその社会情勢に応じて途中で改定するということは、十分、考えられる状況であります。製本するか

どうかというのは、今までは、見やすさから製本したりしていたんですけども、その点についても、考え直す必要があると思っておりますので、検討させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

実は、行革のときに大綱だけは初めて多分、改訂版を出してもらったと思います。やはり、そういう取り組みが必要だと思いますね。

先ほど、五十嵐議員の中であった高校連携ですが、やはり地方創生・若者の定着、これはやはり重要です。地方創生・若者の定着の意味でも、やはり高校で自主的にやってもらわなきゃいけないところはあるけど、やはり、高校の取り組みが悪ければ衰退するんでも困るわけですよ。やはりそこへ、どういう刺激を与えてともにやっていくか。0歳から18歳と言っているわけですから、やはり今、私の質問はほとんど小中を念頭に置いた質問でしたが、やはり高校との連携を計画の中で、もうちょっとしっかりとやっていってもらわなきゃいけない。でも、書いてありますよ。だけど実際、何もやってないじゃないですか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

高校との連携ということについては、非常に大きな課題だと思っています。小中までは、十分な連携ができていると思いますが、高校までとの連携というのが、なかなかうまく進んでいないというのが実情です。今年度、私のほうで各校の校長先生のところに回ってお話をしてみたり、また指導主事が校長会に行って、校長先生方とお話をしたりという会を、ようやく持ち始めたところでもありますので、この高校との連携ということについても十分、心して取り組みたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

やっぱり、高校教育の充実、地域社会としては物すごい重要です。やはり、子供をこの地域で育てたいと思うかというところで、最終の仕上げ段階、大学進学するにしても社会に出るにしても大変、重要なところで、この地域の子育てを評価する後半の重要なポイントになってくる。ここが充実してくると、中学教育も充実してくる可能性もありますよね。そういうふうに考えてもらいたいと思います。

まとめとしては、やはり全体に具体性に乏しいと。今までは、計画を見て、すぐ実行に移せるものになっていないという印象が、強いわけですよ。この計画を渡されて、ではどうしたら、何をしろというのを、そういう声が出てたと、さっき答弁でありましたが、やはり考え方は理解できるが行動がわからないとなってしまう。基本計画に書き込めるものに限界があれば、先ほども言いまし

たが、手引書のようなものをつくる。解説書だっていいかもしれない。何々のためにという手引書があってもいいと思う。基本計画の下に、また実施計画が来るなんていうのはだめですよ。手間もかかるし、また、ますますわかりにくくなる。計画倒れに終わる。計画を策定して仕事が終わって、気がついたら何もやってなかったということに、なりかねないということがあると思うんですよね。

やはり、今ほどいろいろと意見を言わせてもらいましたが、まだ策定途中だと思います。これから委員会にもかかってくるんだと思いますが、ぜひ、現状をもう1回しっかり認識して、一つ一つチェックして、中身のある実効性のある、そして必要なものはまたどんどん、しっかりした製本でなくていいからつくっていくというような考え方で、取り組んでいただきたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後5時07分 延会

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員